

和木地区活性化計画

平成26(2014)年3月

和木自治振興会
(和木地区地域計画策定委員会)

目 次

序章	計画策定にあたって	1
1章	地区の概要	2
1	位置・地勢	2
2	人口・世帯数	2
3	道路・交通	4
4	主要公共公益施設	4
2章	和木地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要	6
1	地区住民（16歳以上）	6
2	小学生（4～6年生）・中学生	21
3	地区外に住み，地区内で働いている人	24
3章	地区の魅力・資源と問題点・課題	27
1	地区の魅力・資源	27
2	地区の問題点・課題	30
4章	地区活性化計画	32
1	地区の将来像	32
2	地区づくりの基本方針	34
3	地区づくりの基本計画	35
4	計画の推進体制	46
資料	計画策定の取り組み	48

序章 計画策定にあたって

1 計画策定の背景と目的

和木地区（以下「地区」といいます。）は、大和地域の南部中心としての役割を果たすとともに、山陽自動車道、広島空港、広島中央フライトロードなどが整備され、広域交通条件に恵まれた地区です。

しかし、過疎化、少子高齢化は本地区でも進行しており、5年後、10年後において現状を維持することが難しくなっています。

このような状況の中、平成25(2013)年3月、地区で親しまれてきた和木小学校が閉校になりました。地区では閉校を機に、平成25(2013)年度に「和木小学校等跡地活用推進会議」を設置し、跡地活用を含む地区の活性化策について検討を進めていました。こうした中、三原市において、中山間地域の活性化を支援する「三原市中山間地域活性化事業」が創設されました。

このため、和木自治振興会ではこの事業を活用することとし、「和木地区活性化計画」の策定に取り組みました。

2 計画の役割

「和木地区活性化計画」は、和木自治振興会（和木地区地域活性化実行委員会）が中心になって取り組むことを総合的に示したもので、区民、関係団体などで地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、地区出身者、都市住民など、多様な人に幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 計画策定への取り組み

和木自治振興会では、自治会、各種団体の代表者などで構成する「和木地区地域計画策定委員会」を設置し、「和木地区活性化計画」の策定に取り組みました。

計画策定にあたっては、区民の皆さんの幅広い意見を聞くために、地区住民（16歳以上）及び小学生（4～6年生）・中学生、地区外に住み、地区で働いている人へのアンケート調査を実施するとともに、地区内全区民を対象とした和木地区活性化意見交換会（以下、「活性化意見交換会」といいます。）を開催しました。

4 計画の期間

計画の期間は、平成26(2014)～30(2018)年度までの5年間とします。また、本計画は5年目に見直しを行います。

1章 地区の概要

1 位置・地勢

本地区は、三原市大和地域の南部に位置し、三原市中心部との所要時間は約40分、JR河内駅まで約15分、山陽自動車道河内IC及び本郷IC、広島空港まで約15分、広島市中心部まで約1時間で、比較的恵まれた立地条件にあります。

また、標高500m級の風采山（風峰）、一万山、馬涼山の三山に囲まれた、比較的コンパクトな地域であり、大草川、徳良川、棕梨川が和木地区で合流して白竜湖（棕梨ダム）に注いでいます。

さらに、公共公益施設、商業サービスが立地し、大和地域南部の中心地としての役割を果たしています。

2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本地区の総人口を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で1,095人になっており、過去5年間で約8%減少しています。

年齢4区分別人口をみると、平成22(2010)年で0～14歳100人、15～64歳566人、65～74歳124人、75歳以上305人になっています。高齢化率は39%で、三原市中山間地域の37%よりやや高くなっています。

過去5年間で0～14歳、15～64歳、65～74歳は減少していますが、75歳以上は増加しています。

表1 人口の推移 (単位：人，%)

区分	平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増減		
			実数	割合	
実数	合計	1,182	1,095	△87	△7.4
	0～14歳	138	100	△38	△27.5
	15～64歳	639	566	△73	△11.4
	65～74歳	134	124	△10	△7.5
	75歳以上	271	305	34	12.5
割合	0～14歳	11.7	9.1		
	15～64歳	54.1	51.7		
	65～74歳	11.3	11.3		
	75歳以上	22.9	27.9		

注：資料は、国勢調査。

(2) 世帯数の動向

本地区の世帯数を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で298世帯になっており、過去5年間で4世帯増加しています。

1世帯当たり世帯人員は平成22(2010)年で3.66人になっており、過去5年間で0.36人減少しています。

表2 世帯数などの推移 (単位：世帯，人)

区分	平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増減
世帯数	294	298	4
世帯人員	4.02	3.66	△0.36

注：資料は、国勢調査。

(3) 人口の将来見通し

本地区の将来人口を平成17(2005)年と平成22(2010)年の国勢調査人口をもとに、年齢コーホート推移率法で推計すると、平成30(2018)年で約950人、平成35(2023)年で約880人になり、平成22(2010)年と平成35(2023)年を比較すると、約220人の減少が見込まれます。

年齢別に平成22(2010)年と平成35(2023)年の人口を比較すると、0～14歳で100人が36人、15～64歳で566人が348人、65～74歳で124人が148人、75歳以上で305人が344人になっており、0～14歳及び15～64歳は減少、65歳以上は増加と見込まれます。65～74歳は平成30(2018)年まで増加した後、平成35(2023)年には減少に転じているものと見込まれます。

また、高齢化の動向をみると、65～74歳は平成30(2018)年、平成35(2023)年ともに約17%、75歳以上は平成30(2018)年約34%、平成35(2023)年約39%です。

図1 年齢4区分別人口推計

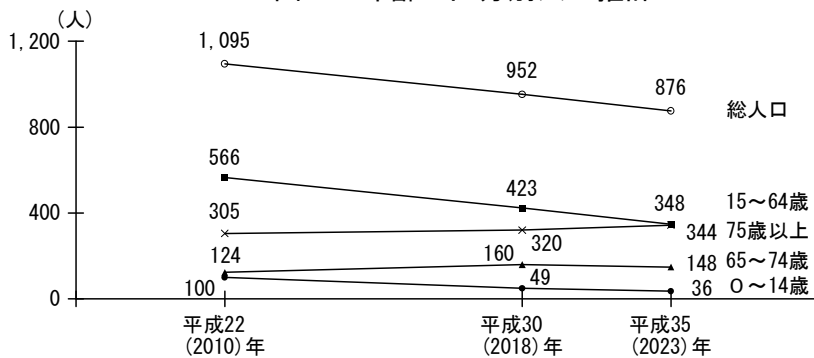


図2 年齢4区分別人口割合

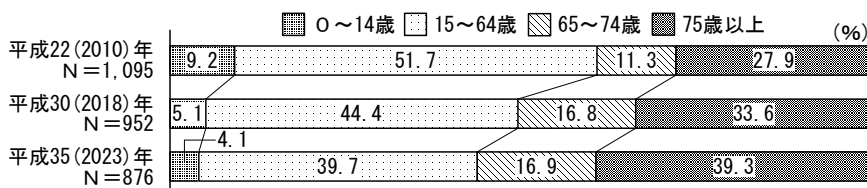
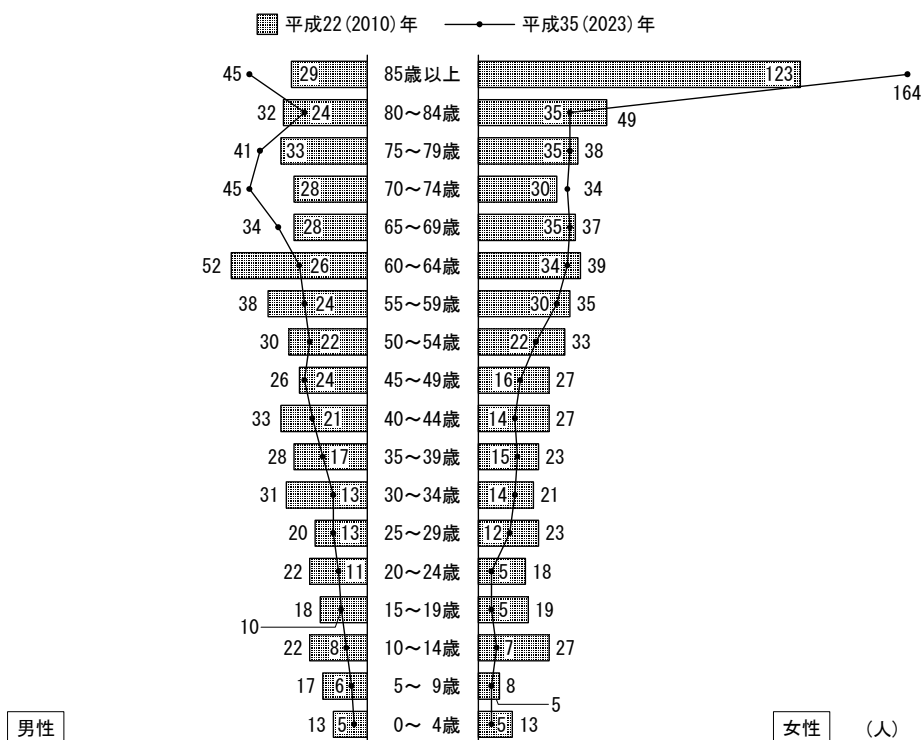


図3 男女別5歳階級別人口



3 道路・交通

道路網は、本地区を国道432号と国道486号が十字状に走り、地区の骨格道路になっています。これらの道路で、JR山陽本線河内駅に約15分で行けるほか、広島中央フライトロードを通じて山陽自動車道河内ICや本郷ICと約15分で連絡しています。

生活交通は、路線バスが運行し、JR山陽本線河内駅と世羅町中心部を連絡しています。そのほか、大和ふれあいタクシー（予約乗合タクシー）が週3日運行しており、本地区及び下徳良中心部と周辺部を連絡しています。

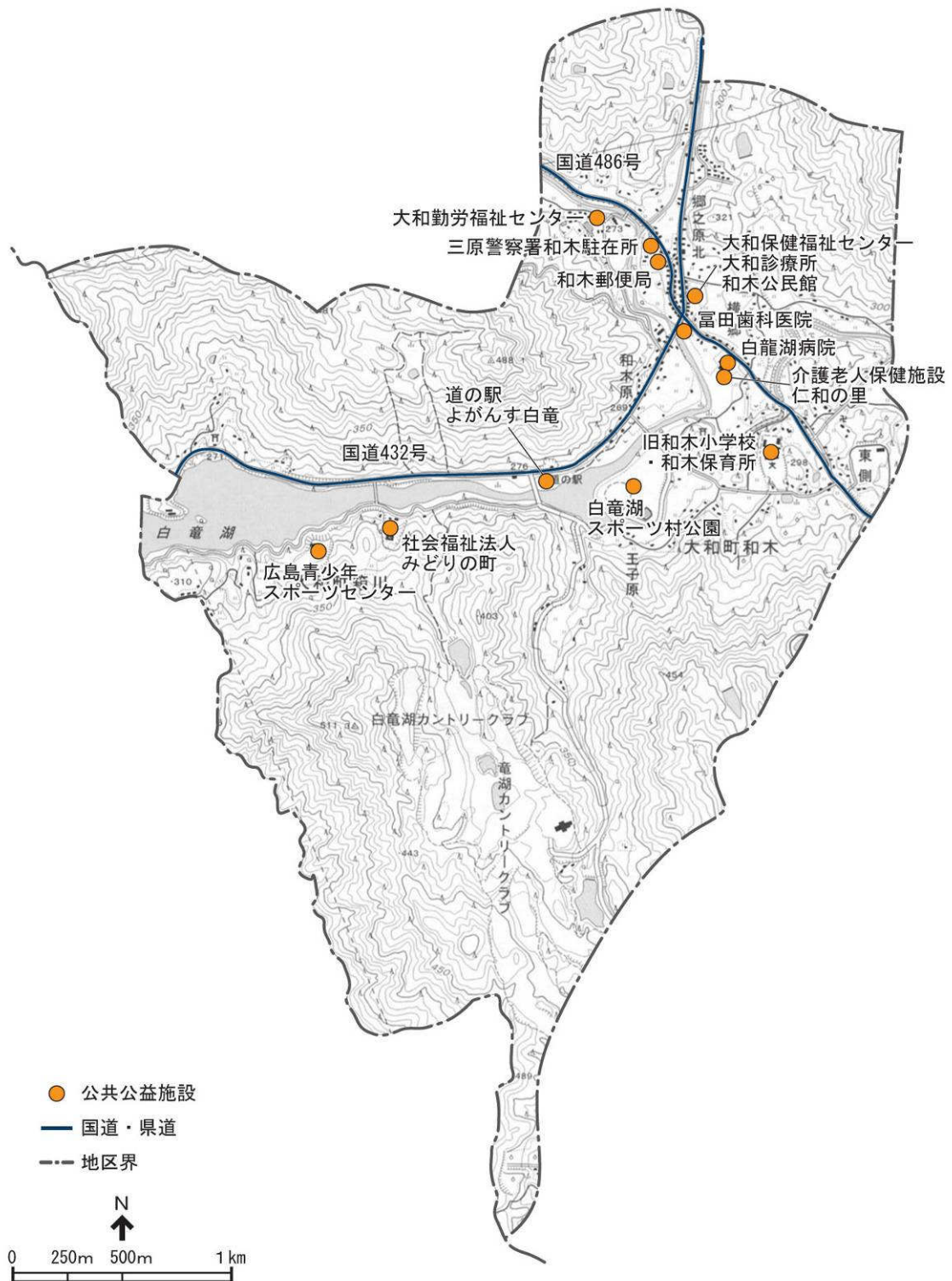
4 主要公共公益施設

本地区には、文化集会施設、保健福祉・介護施設、スポーツ施設、医療施設などの公共公益施設が多く分布しています。また、商業サービス施設もあり、比較的利便性に恵まれた地区です。

表3 地区の公共公益施設

区 分	名 称
文化集会施設	・和木公民館
保健福祉・介護施設	・大和保健福祉センター ・大和勤労福祉センター ・社会福祉法人みどりの町 ・介護老人保健施設仁和の里
スポーツ施設	・白竜湖スポーツ村公園（総合運動場、野球場、白竜ドーム、テニスコート、フットサルコートなど） ・広島青少年スポーツセンター
医療施設	・白龍湖病院 ・大和診療所 ・富田歯科医院
その他公共施設	・和木郵便局 ・三原警察署和木駐在所
その他	・道の駅よがんす白竜

図4 地区の道路・交通, 主要公共公益施設



2章 和木地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要

本調査は、地区住民（16歳以上）及び小学生（4～6年生）・中学生，地区外に住み，地区内で働いている人の意見を把握し，「和木地区活性化計画」の策定に反映するためにを行いました。

調査票の回収状況は地区住民（16歳以上）520件，小学生（4～6年生）・中学生30件，地区外に住み，地区内で働いている人183件でした。

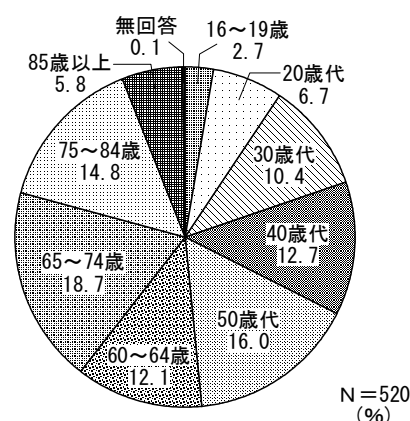
1 地区住民（16歳以上）

(1) 回答者自身について

ア 回答者の年齢

回答者の年齢は，16～39歳19.8%（103人），40～59歳28.7%（149人），60～74歳30.8%（160人），75歳以上20.6%（107人）になっています。

図5 年齢

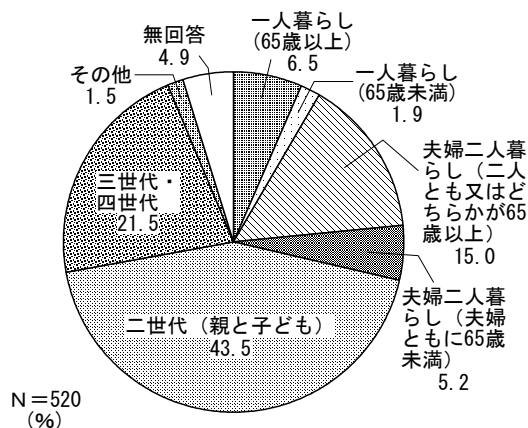


イ 家族構成

家族構成は，「二世世代（親と子ども）」が43.5%（226人）で最も割合が高く，次いで「三世代・四世代」21.5%（112人）などの順です。

また，「一人暮らし（65歳以上）」と「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」を合わせた割合は21.5%（112人）です。

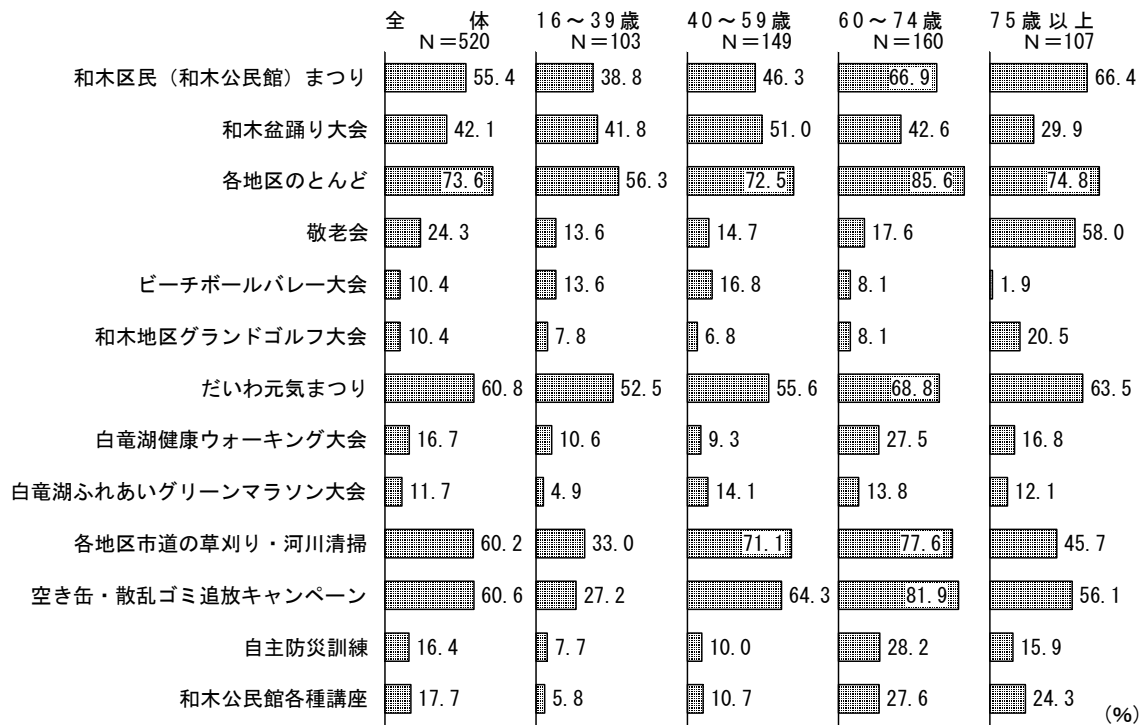
図6 家族構成



(2) 行事や活動への参加状況

本地区の行事や活動へ参加している人（「ほぼ参加」，「半分程度参加」，「時々参加」を合わせた割合）の割合をみると，「各地区のとんど」が73.6%（383人）で最も割合が高く，次いで「だいわ元気まつり」60.8%（316人），「空き缶・散乱ゴミ追放キャンペーン」60.6%（315人），「各地区市道の草刈り・河川清掃」60.2%（313人），「和木区民（和木公民館）まつり」55.4%（288人）などの順です。

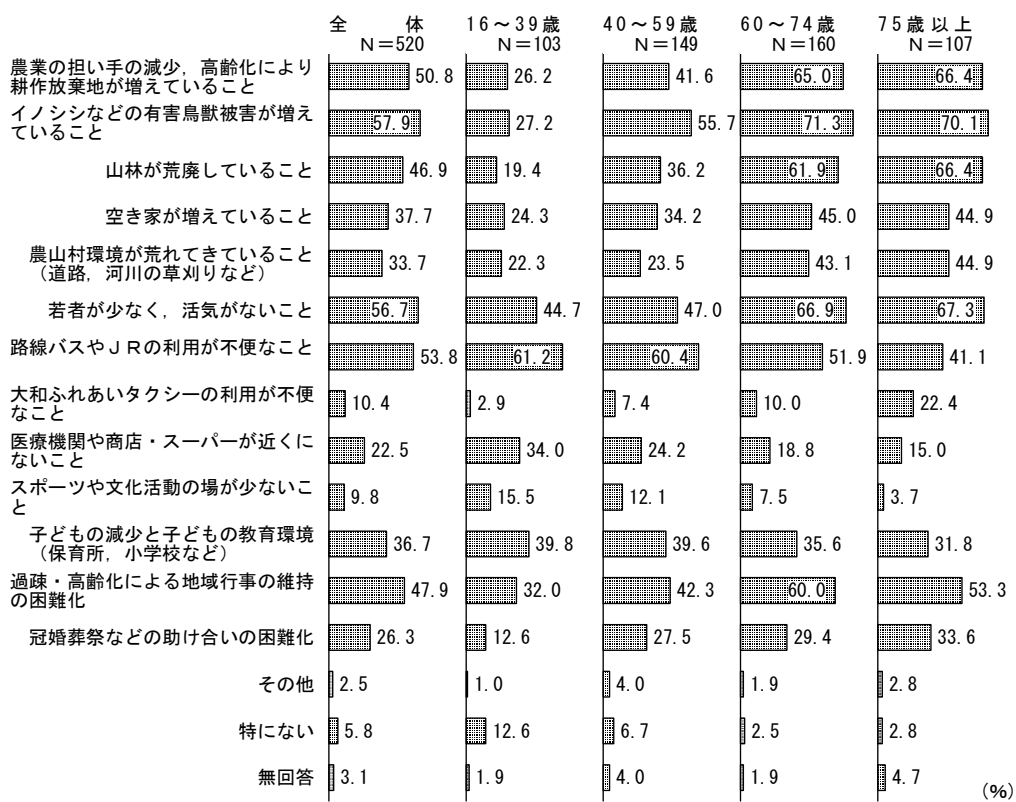
図7 行事や活動への参加状況



(3) 地区の現状や将来のことで不安に思っていること

地区の現状や将来のことで不安に思っていることの内容をみると、「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」を挙げた人が57.9%（301人）で最も割合が高く、次いで「若者が少なく、活気がないこと」56.7%（295人）、「路線バスやJRの利用が不便なこと」53.8%（280人）、「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」50.8%（264人）、「過疎・高齢化による地域行事の維持の困難化」47.9%（249人）の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では、「山林が荒廃していること」46.9%（244人）、「空き家が増えていること」37.7%（196人）、「子どもの減少と子どもの教育環境（保育所、小学校など）」36.7%（191人）、「農山村環境が荒れてきていること（道路、河川の草刈りなど）」33.7%（175人）、「冠婚葬祭などの助け合いの困難化」26.3%（137人）、「医療機関や商店・スーパーが近くにないこと」22.5%（117人）などの順です。

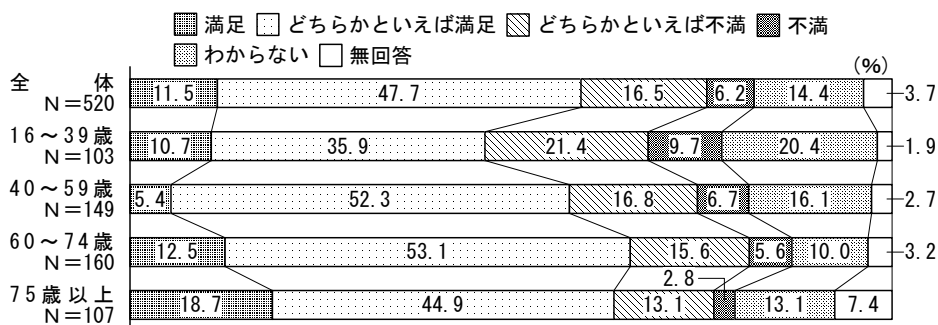
図8 地区の現状や将来のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



(4) 地区の住みやすさの評価

地区の住みやすさについては、「満足」11.5%（60人）、「どちらかといえば満足」47.7%（248人）でこれらを合わせた住みやすさに満足している人は59.2%（308人）です。

図9 地区の住みやすさの評価

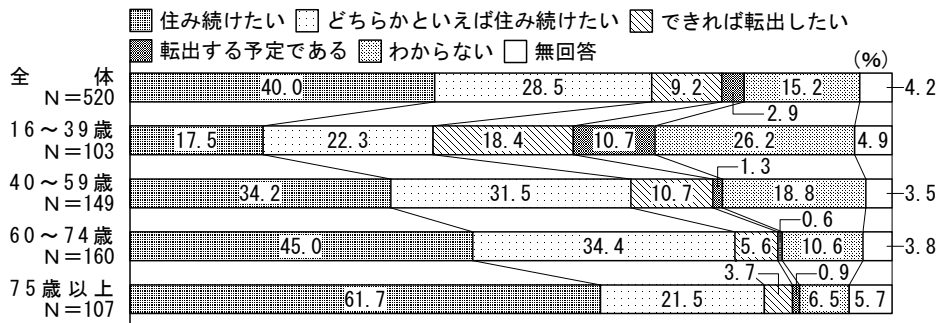


(5) 地区への今後の居留意向とその理由

ア 地区への今後の居留意向

地区への今後の居留意向は、「住み続けたい」40.0%（208人）、「どちらかといえば住み続けたい」28.5%（148人）でこれらを合わせた地区へ住み続ける意向の人は68.5%（356人）です。

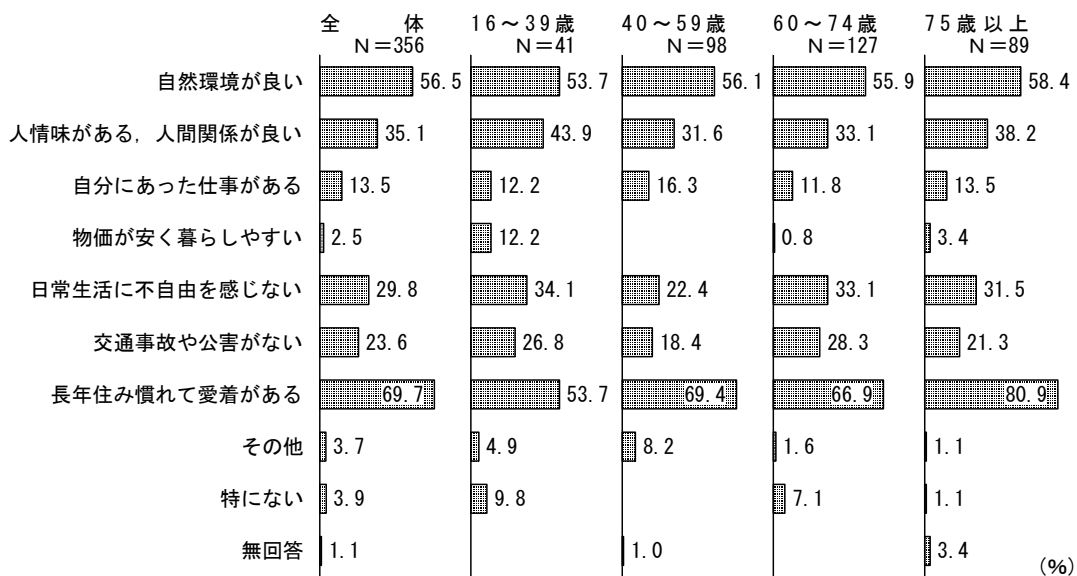
図10 地区への今後の居留意向



イ 地区に住み続けたいと思う理由

地区に住み続ける意向の人の地区に住み続けたいと思う理由は、「長年住み慣れて愛着がある」を挙げた人が69.7%（248人）で最も多く、次いで「自然環境が良い」56.5%（201人）、「人情味がある，人間関係が良い」35.1%（125人）、「日常生活に不自由を感じない」29.8%（106人）、「交通事故や公害がない」23.6%（84人）などの順で、「長年住み慣れて愛着がある」と「自然環境が良い」の2項目を挙げた人の割合が高くなっています。

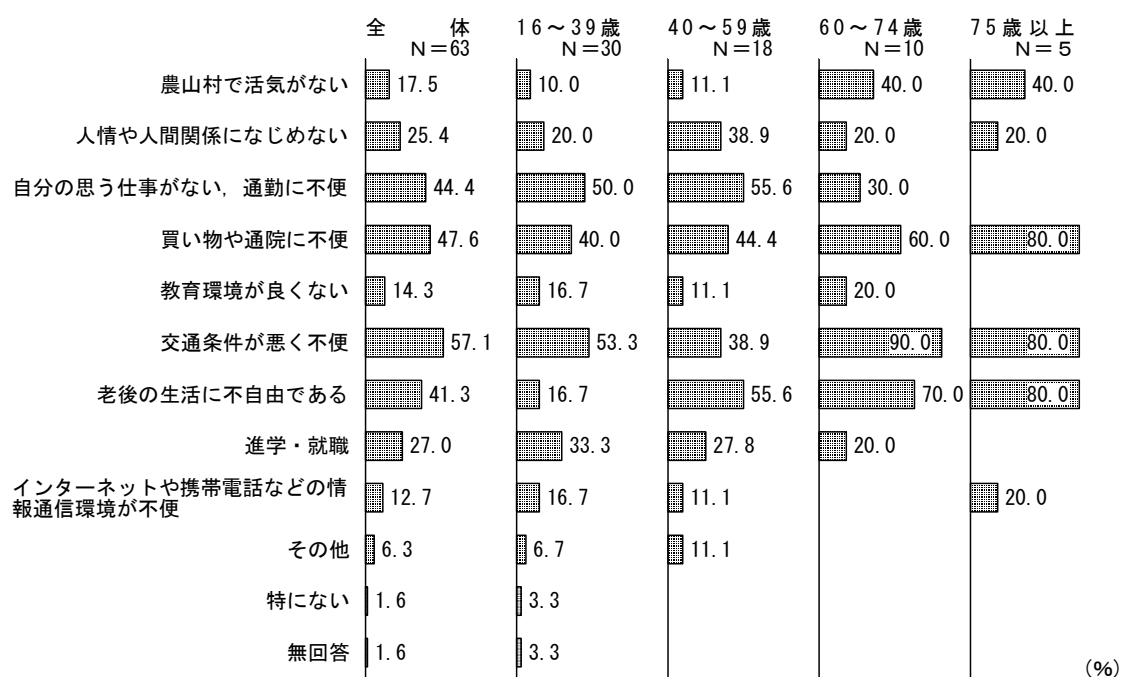
図11 地区に住み続けたいと思う理由（複数回答：いくつでも）



ウ 地区を転出したいと思う理由

地区を転出する意向のある人の地区を転出したいと思う理由は、「交通条件が悪く不便」を挙げた人が57.1%（36人）で最も多く、次いで「買い物や通院に不便」47.6%（30人）、「自分の思う仕事がない、通勤に不便」44.4%（28人）、「老後の生活に不自由である」41.3%（26人）の順で、これら4項目を挙げた人の割合が高くなっています。

図12 地区を転出したいと思う理由（複数回答：いくつでも）



(6) 今後の地域づくりについて

ア 地区で大事にしたい、活用したい資源（自由記述）

地区で大事にしたい、活用したい資源として、次のようなものが挙げられています。施設としては白竜湖スポーツ村公園が51件で最も多く、その他では大和診療所、和木小学校・保育所跡地、和木郵便局、大和保健福祉センター、大和勤労福祉センター、和木公民館などの順です。自然資源では白竜湖、白竜湖周辺の桜、虚空蔵山、花みずき公園の件数が多くなっています。特産物としてはみどりの町（ぶどうなど）、宝利製パン所（あんどーナツなど）、エトワール大池（ブランデーケーキなど）が10件以上挙げられています。

イ 資源の具体的な活用方策（自由記述）

資源の具体的な活用方策については、小学校・保育所跡地の活用についての意見が非常に多く、その他では白竜湖スポーツ村公園、虚空蔵山、棕梨川の活用についても意見が挙げられています。

表 4 資源の具体的な活用方策(1)

区 分		内 容
小学校・保育所跡地(47)	高齢者介護・福祉施設(12)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の介護福祉・交流施設(8) ・高齢者施設に転用 ・今後高齢化が進み一人暮らしが増え、外に出る機会が少なくなると、人と会話することが少なくなるので、集まって会話や軽い運動ができる場所 ・高齢者のサロン、趣味の展示、即売 ・サロンや教室の開催
	生涯学習・交流施設(12)	<ul style="list-style-type: none"> ・講座開催 ・チェーンソーアートなど自然を利用して美術的なものを作る ・和木区民の交流の場 ・各団体の集合化、趣味の教室 ・公共の場、集いの場 ・趣味の将棋囲碁などで愛好者が集う会場として、公民館、集会所などを活用し友好を深める場を企画運用 ・公民館として生涯学習に利用 ・交流施設 ・癒しの場 ・地区のコミュニティでの行事に、希望があれば他の地区の人も自由に参加できるようにする ・個展、アトリエ的な活用
	スポーツ施設(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・アスレチッククラブを設立し、シャワー、温水プール、特産物の販売、軽食レストランなど開く。健康増進と活性化 ・プールに屋根をつけて温水プールにする

注：（ ）内は複数意見の場合の件数。

表4 資源の具体的な活用方策(2)

区 分		内 容
小学校・保育所跡地(47)	宿泊施設(8)	<ul style="list-style-type: none"> ・野球場, テニスコート, グラウンドなどを活用してくれる団体などを呼び, 簡易宿泊施設として活用 (安価で) ・白竜湖スポーツ村公園の利用を促進する宿泊施設として整備 ・サイクリングターミナルを兼ね備えた宿泊施設 (キャンプ場も), 保育所跡地に大型遊具を整備し, 夏にはプール遊び, 昆虫採集, 釣り, スポーツを提供し, 来訪客を集める ・宿泊施設にして, 広島へ修学旅行に来る生徒が宿泊し, 農業体験などの場を提供 ・夏休みは白竜湖利用者による宿泊利用が多い ・白竜湖スポーツ村公園とリンクした合宿所 ・山のホテル ・宿泊施設
	産業施設(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致 ・特産品開発, プールの活用 (うなぎ, どじょうなど) など ・特産品の加工, 製造販売所など ・小学校のランチルームでうどん弁当, ソフトクリーム, 飲み物, 和木のパンケーキ, 野菜などを販売する ・広島, 福山周辺から人が集まってくる店を作る (ドジョウ, イノシシ, 鹿なども活用, ハイクオリティな特産品の提供) ・就労支援センターとして有機農業を取り入れる ・味噌教室
	その他(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド, 駐車場, 校舎屋根にソーラーパネルを付けて施設の電力をまかなう。グラウンド, 駐車場にはただパネルを並べて設置するのではなく, プレハブまたは鉄骨で2階にして下は駐車場などとして活用, または住宅地にする ・体育館, グラウンドを使ってビーチバレー大会, グラウンド・ゴルフ, 和木地区全体での盆踊り大会, 花火大会の開催 ・市街地で暮らす人のレジャー施設 ・花壇などを利用して花を植栽 ・キャンプができるよう, 水道, 外灯設備を整える ・葬祭会館
白竜湖スポーツ村公園(13)	施設整備(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設(2) ・夜間照明の整備 ・大型遊具の整備 ・施設の拡充・整備 ・ダム湖畔の整備 (釣り人のため)
	教室(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・カヌーまたはボート ・夜間や休日にスポーツ教室 (バドミントンなど) ・健康づくり, ドームとの連携
	イベント(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツイベントの増加 ・釣り大会, 花見, 花火大会 ・壁画ライトアップ ・ドームを大きなキッズルームにするイベント (ボールプールなど)

注: () 内は複数意見の場合の件数。

表4 資源の具体的な活用方策(3)

区 分	内 容
虚空蔵山(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・山頂の木を伐採 ・山の開発 ・ハイキングコース開拓
棕梨川(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・親水公園(子どもが自由に遊べる安全なプールなど)をつくる ・川を活かした蛸, シジミ, 川遊びなど
土地・建物(8)	<ul style="list-style-type: none"> ・荒れた田んぼの活用 ・使用していない農地で野菜などを栽培 ・森林資源を放置せず, 植林, 植育を立ち上げる ・いらぬ木材, 山の廃材を利用して, 誰でも入れるお風呂づくり(安価で, 山もきれいになって経費の節約につながる) ・山の木をチップにして暖房に使う ・和木を含む大和の森林(山)の整備(松枯れ, 山道雑木, 雑草の間引き, 草刈り整備など) ・豊富な山野の樹木, 山野草に名札を付け, 町内, 町外からの来訪者の人々にも自然に親しんでもらうウォーキングコースの整備なども必要 ・空き家の活用
その他(12)	<ul style="list-style-type: none"> ・和木地区の昔の資源を大切に, 文化財の保護に取り組む ・白竜湖を中心とする食文化の町(特産物などにしても地元だけでなく, 全国の食文化を取り入れる) ・梅の里公園の規模が中途半端で, 付近の利用(グラウンドゴルフ場常設)と, 大きな木があるので何か楽しいことに利用する ・エネルギーの地産地消(ゴミ焼却・発電給湯, バイオマス, ガス肥料など地域で作ったエネルギーを家庭や施設, 福祉車両などで利用) ・大和勤労福祉センターと和木小学校跡地を神楽保存会で使用 ・公民館で夜間, 休日に文化教室(お茶, お花など)の開催 ・和木公園を新しく安全なものにする ・福富町の道の駅は子ども遊具を整備することで来訪客があるので, 花みずき公園にも整備する ・有機農業をしている人の話を聞き, 参考にする ・児童公園 ・児童公園, 花みずき公園にもっと花を植える ・連携してひとつの集合体として見たときの戦略(ブランド, 特色)を濃くしていく

注:()内は複数意見の場合の件数。

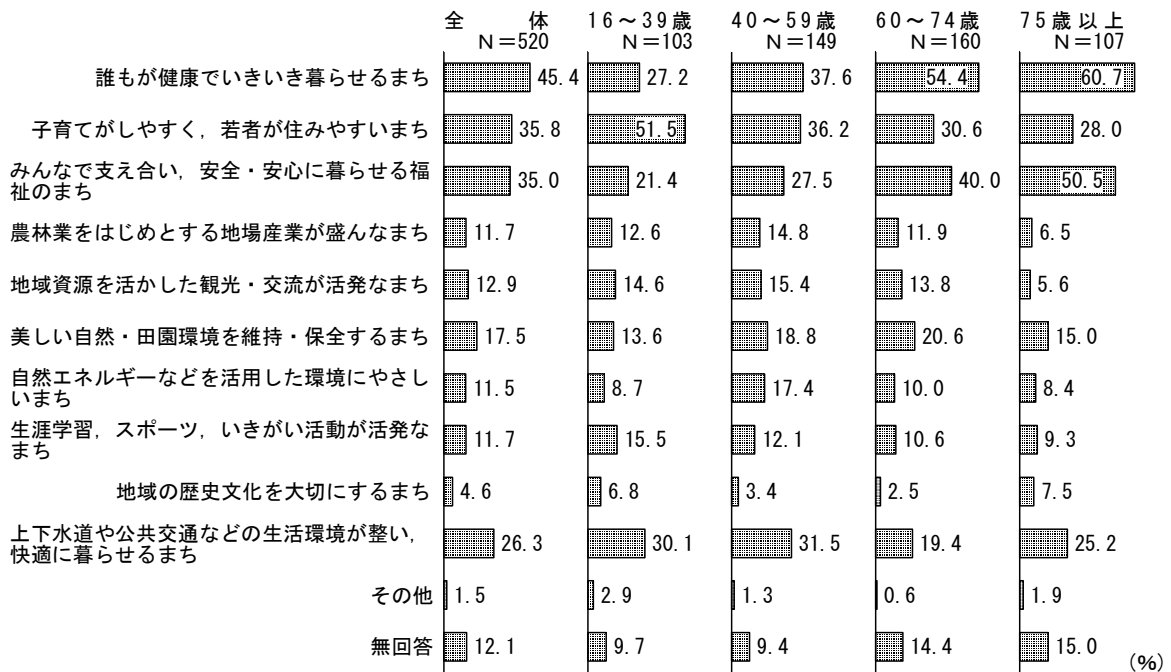
ウ 地区にあつたらよいと思う施設（自由記述）

地区にあつたらよいと思う施設としては、「プール」29件、「温水プール」11件でプールに対する要望が多くなっています。その他では、スポーツジム、コンビニエンスストア、娯楽施設の件数が比較的多くなっています。

エ 地区の将来像

地区の将来像は、「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」を挙げた人が45.4%（236人）で最も多く、次いで「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」35.8%（186人）、「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」35.0%（182人）、「上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち」26.3%（137人）の順で、これら4項目を挙げた人の割合が高くなっています。

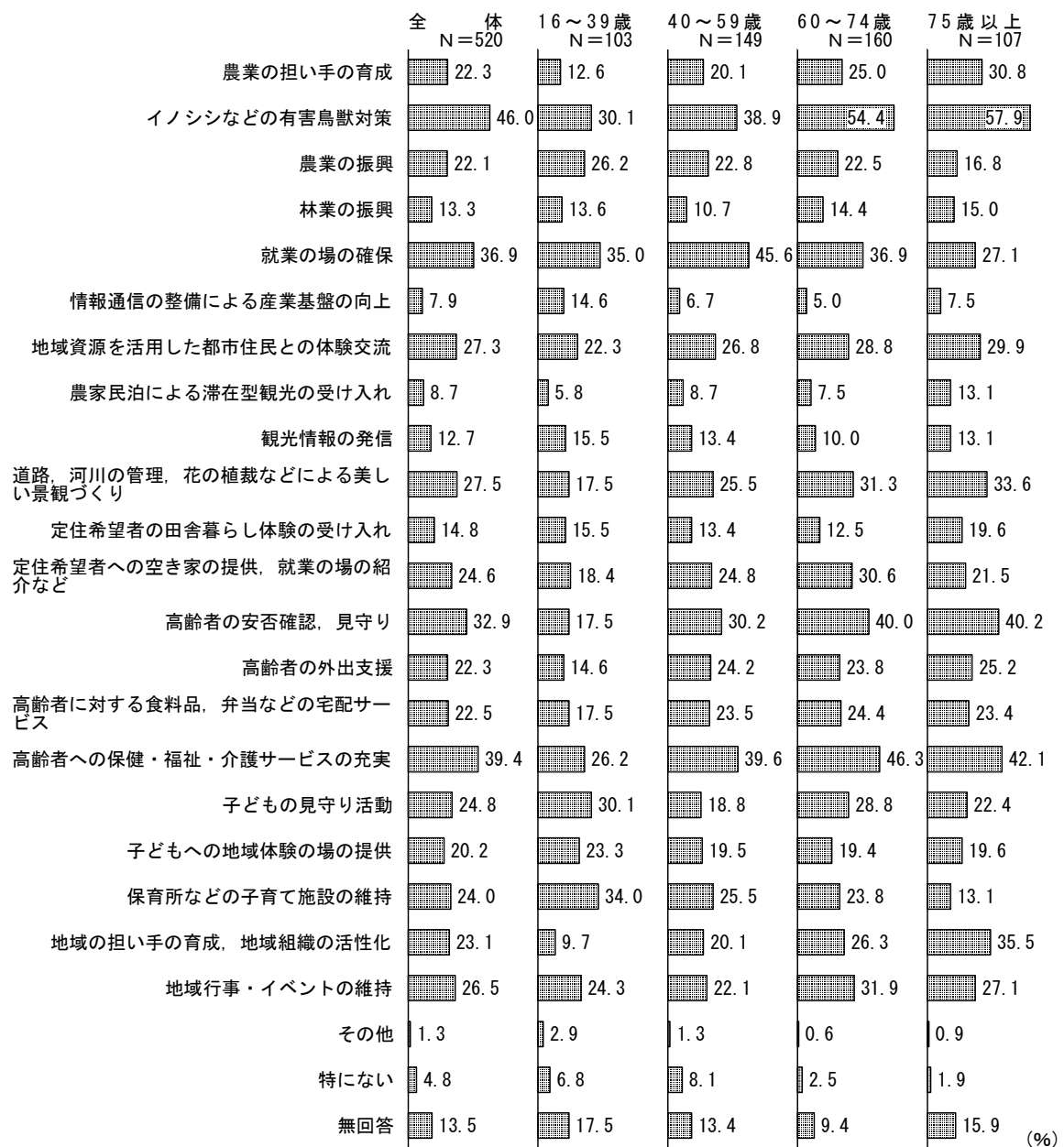
図13 地区の将来像（複数回答：3つ以内）



オ 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと

地区で取り組みたいこと、取り組んでほしいことの内容をみると、「イノシシなどの有害鳥獣対策」を挙げた人が46.0%（239人）で最も多く、次いで「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」39.4%（205人）、「就業の場の確保」36.9%（192人）、「高齢者の安否確認、見守り」32.9%（171人）、「道路、河川の管理、花の植栽などによる美しい景観づくり」27.5%（143人）の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では、「地域資源を活用した都市住民との体験交流」27.3%（142人）、「地域行事・イベントの維持」26.5%（138人）、「子どもの見守り活動」24.8%（129人）、「定住希望者への空き家の提供、就職の場の紹介など」24.6%（128人）、「保育所などの子育て施設の維持」24.0%（125人）などの順です。

図14 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと（複数回答：いくつでも）



(7) 小学校の跡地利用について

ア サロンを設置した場合の利用意向

サロンを設置した場合「利用したい」と答えた人は19.0% (99人) です。

イ サロンを利用したい回数

サロンを利用したいと答えた人のサロンを利用したい回数は「週1回」と答えた人が36.4% (36人) で最も多く、次いで「週2回」22.2% (22人), 「週3回以上」15.1% (15人) の順です。

ウ サロンのスタッフへの参加意向

サロンのスタッフとしての参加については、「参加したい」と答えた人が11.2% (58人) です。

エ 自家栽培の野菜をサロンに食材として提供する意向

自家栽培の野菜をサロンに食材として「提供できる」と答えた人は11.3% (59人) です。

オ 料理教室への参加意向

料理教室に「参加したい」と答えた人は22.5% (117人) です。

カ 料理教室へ参加したい回数

料理教室へ「参加したい」と答えた人の料理教室へ参加したい回数は、「月1回」と答えた人が62.4% (73人) で最も多く、次いで「月2回」25.6% (30人) などの順です。

キ 子ども対象料理教室について

子どもを対象とした「簡単なことから始める料理教室」を小学校跡地で開催した場合、子どもを「参加させたい」と答えた保護者は9.2% (48人) です。

(8) その他の取り組みについて

ア 自作作品の地区の行事などでの販売意向

自分で作った作品を地区の行事で「販売したい」と答えた人は10.0% (52人) です。

イ 特産品づくりのための果樹栽培への参加意向

本地区で特産品づくりのために、梅、イチジクなどの果樹を栽培することになった場合に「参加したい」と答えた人は12.5% (65人) です。

ウ 新たな特産品として開発したいもの（自由記述）

新たな特産品として開発したいものとしては、次のようなものが挙げられています。

表5 新たな特産品として開発したいもの(1)

項目	内容	
食材	<ul style="list-style-type: none"> ・米(2) ・梅, 梅の里公園の梅の利用, 梅の実の利用 ・野菜(11), とれたて野菜(4) ・野菜など大和町または和木地区でとれたものを100円ショップとして販売 ・レンコン(4), 大和いも(3), はとむぎ(2) ・果物(7), ぶどう(2), 桃(2), イチゴ, ブルーベリー ・柿, 柚 ・松茸, 椎茸 ・ハーブ茶の栽培と商品化 	
加工品	野菜	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜を使ったスイーツ ・野菜チップスの詰め合わせ（レンコン, ゴボウ, カボチャ, 桃, リンゴ, 干しぶどうなど） ・漬け物(3), 漬け物など家庭の味, 漬け物（梅, らっきょう, 大根, 白菜漬けなど） ・レンコンチップス ・有機栽培の野菜や豆などで作った加工品
	はとむぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・はとむぎパン ・はとむぎクッキー, はとむぎソフト ・はと麦茶, ドライフルーツ, ドライ野菜 ・はとむぎを取り入れた弁当やお茶 ・はとむぎを利用したものでスポーツをする人に低カロリーなもの ・はとむぎスパークリング
	梅	<ul style="list-style-type: none"> ・梅（塩も入れたら夏など熱中症対策になる） ・梅ジャム, イチジクなどをいれたパウンドケーキ・梅エキス
	果物	<ul style="list-style-type: none"> ・果物で香りを楽しんでもらうアロマオイルやフレグランスミストを開発 ・果物を使った商品 ・桃, 梨, ぶどうなどの果物を利用した土産, スイーツ ・ジャム(2), 桃のジャム
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・椎茸の肉詰め ・竹, 山野草, ワラなど自然素材の利用
菓子・パン・スイーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・菓子(2) ・大和の果物を使った洋菓子 ・エトワール大池による新商品の提供（例えば, みどりの町のぶどうを利用し, 和洋をミックスしたお菓子） ・持ち帰りできる菓子(2) ・宝利製パン所のパン ・焼きたてのパン, はとむぎのパン ・桃大福やぶどう大福などの甘い菓子 ・果実, 野菜などを工夫したスイーツ（来訪客がつい手を伸ばしたくなるようなもの） ・生どら, まんじゅう, 餅 ・栗を使ったもの 	
アイスクリーム	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスクリーム(3) ・白竜の桃（ピーチソフトクリーム） ・夏は飲み物, アイスクリーム 	

注：（ ）内は複数意見の場合の件数。

表5 新たな特産品として開発したいもの(2)

項目	内容
飲み物	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツドリンクのようなもの(2) ・白竜湖スポーツドリンク ・白竜水とタイアップし、白竜水使用のスポーツ飲料やフルーツジュース ・ピザの人気にあやかってお茶の開発、または作り方教室 ・飲み物
料理・弁当類	<ul style="list-style-type: none"> ・お好み焼き、チヂミ、たこ焼き(若い人は好む) ・お弁当(花見弁当)や飲み物 ・軽食(パン、サンドウィッチ、おむすび)(2) ・若者向けの料理(4) ・ご当地グルメ(B級グルメ) ・冬は体の温まるしょうが湯、ぜんざい、イモの汁
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・蜂蜜 ・ブラックバス、ドジョウ ・イノシン、鹿、まむし ・米を使ったもの ・竜キャラのグッズ販売、竜のタオル ・箒、熊手など手作品 ・木工品 ・キーホルダー
販売方法	<ul style="list-style-type: none"> ・これ以上開発は必要ない。既に多くの特産品があり、価格、セット内容、アピール(宣伝)を調査、検討すべき。 ・大きな大会や多くの人を訪れる時期に、果実の森のアイスクリームやパンをデポ的な感じで持ってくる(バス釣りの人たち向け)。 ・直接畑に出向いて野菜を買えるシステム。体験もできるし、人とのつながりもできる。興味も持ってもらえるし、親子連れには有意義な一日になる。

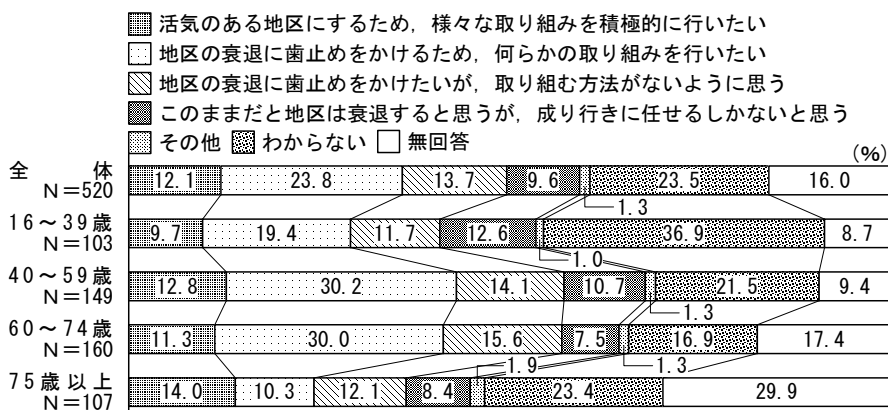
注：()内は複数意見の場合の件数。

(9) 和木地区の活性化に向けた活動への参加について

ア 地区の今後についての意向

地区の今後については、「活気のある地区にするため、様々な取り組みを積極的に行いたい」12.1%(63人)、「地区の衰退に歯止めをかけるため、何らかの取り組みを行いたい」23.8%(124人)で、これらを合わせた地区の今後について何らかの取り組みをしたと考えている人は35.9%(187人)です。

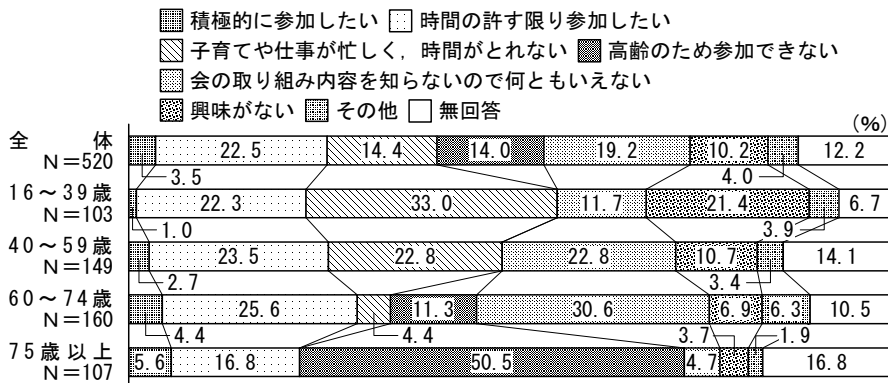
図15 地区の今後についての意向



イ 地区の活性化に向けた取り組みへの参加意向

地区の活性化に向けた取り組みについて、「積極的に参加したい」3.5%（18人）、「時間の許す限り参加したい」22.5%（117人）で、これらを合わせた地区の活性化に向けて取り組みたいと考えている人は26.0%（135人）です。

図16 地区の活性化に向けた取り組みへの参加意向

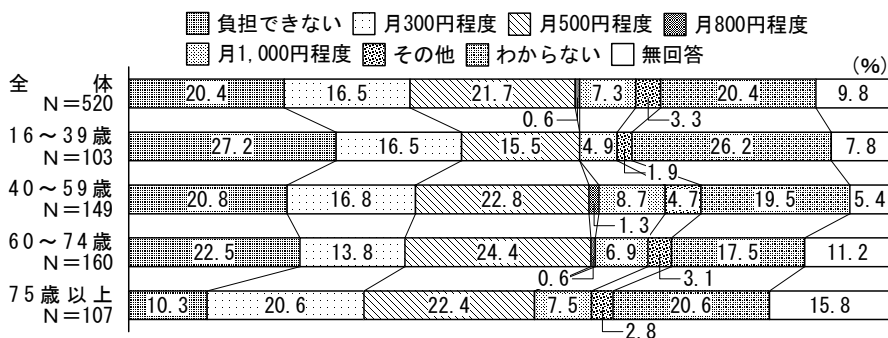


ウ 地区の活性化に取り組むための財源として新たに負担可能な金額

地区の活性化に取り組むための財源として新たに負担可能な金額は、一定金額（月300～1,000円程度）を新たに負担する意向の人が46.1%（240人）で約半数を占めています。

その内訳は、「月300円程度」16.5%（86人）、「月500円程度」21.7%（113人）、「月800円程度」0.6%（3人）、「月1,000円程度」7.3%（38人）です。

図17 地区の活性化に取り組むための財源として新たに負担可能な金額



(10) 農地の耕作状況について

世帯主であると答えた人で、農地を「所有している」と答えた人は52.1%（100人）です。

ア 農地の耕作状況

農地の耕作状況は、「家族で耕作している」と答えた人が71.0%（71人）で大部分を占めており、次いで「家族で耕作するとともに、他の農家や農業生産法人に耕作を頼んでいる」10.0%（10人）、「家族で耕作せず、他の農家や農業生産法人に耕作を頼んでいる」9.0%（9人）、「耕作を頼む農家や農業生産法人がないので、耕作していない」8.0%（8人）の順です。

イ 農地の今後の耕作意向

農地の今後の耕作意向については、「今後も家族で耕作する」と答えた人が49.0%（49人）で最も多く、次いで「わからない」21.0%（21人）、「家族での耕作面積を減らし、他の農家や農業生産法人に耕作を頼む面積を増やす」、「家族での耕作をやめ、他の農家や農業生産法人に耕作を頼む」及び「耕作をやめる」9.0%（9人）などの順で、農地を家族のみで耕作する人の減少が見込まれます。

図18 農地の耕作状況

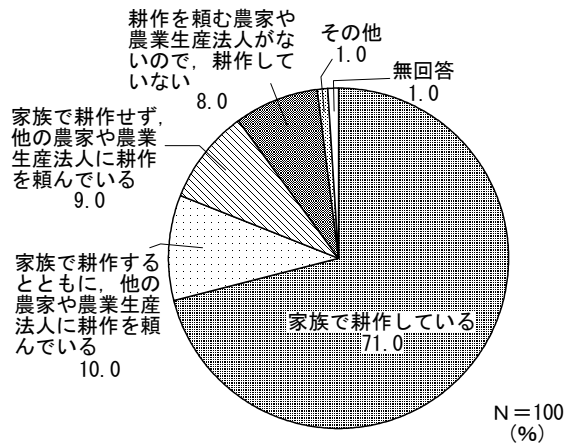
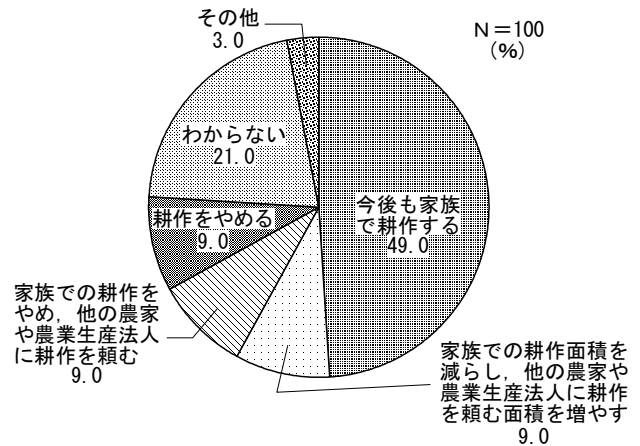


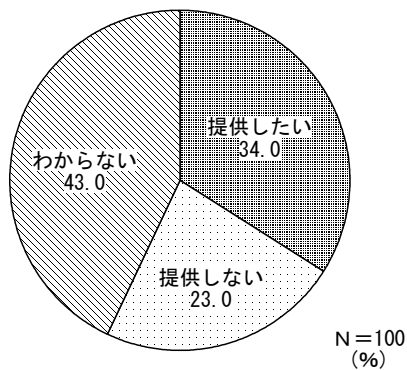
図19 農地の今後の耕作意向



ウ 市民農園への農地の提供意向

本地区で市民農園を開設する場合、その用地として自分の農地の一部を市民農園として「提供したい」と答えた人は34.0%（34人）です。

図20 市民農園への農地の提供意向



2 小学生（4～6年生）・中学生

回答した30人は、小学生（4～6年生）46.7%（14人）、中学生53.3%（16人）です。

(1) 今後の地域づくりについて

ア 地区のすばらしいところ（自由記述）

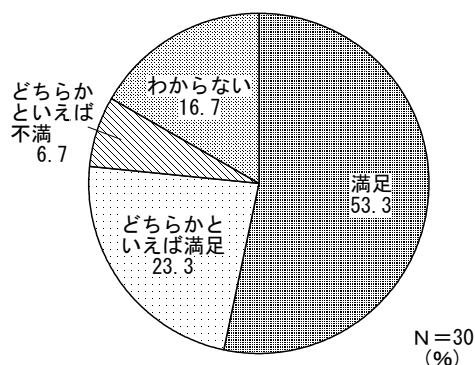
地区のすばらしいところについての記入件数は37件で、その内訳は自然資源12件、施設など16件、特産物4件、歴史文化資源1件、その他4件です。

具体的な内容としては、白竜湖スポーツ村公園の施設、白竜湖周辺の景色などです。

イ 地区の住みやすさの評価

地区の住みやすさは、「満足」53.3%、「どちらかといえば満足」23.3%で、これらを合わせた地区の住みやすさに満足している人の割合は76.6%です。

図21 地区の住みやすさの評価



ウ 地区の住みやすさに満足している理由（自由記述）

地区の住みやすさに満足していると答えた人（「満足」または「やや満足」と答えた人）の満足している理由としては、自然、生活環境、地区の人のやさしさが挙げられています。

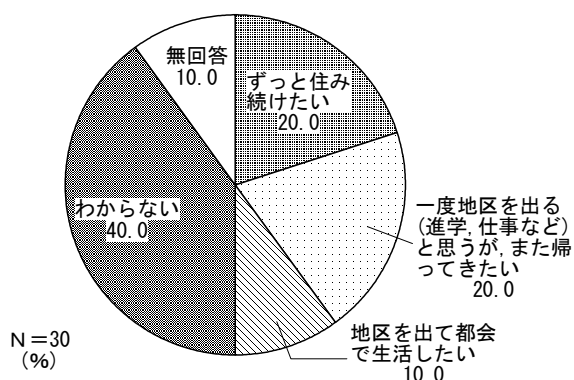
エ 地区の住みやすさに不満な理由（自由記述）

- ・事故が起こりそうだから。
- ・ゆめタウンとかフジがない。せめて100円ショップがほしい。

オ 地区への今後の居住意向

地区への今後の居住意向は、「ずっと住み続けたい」及び「一度地区を出る（進学、仕事など）と思うが、また帰ってきたい」と答えた人が各20.0%で、これらを合わせた40.0%の人が地区への居住意向を持っています。

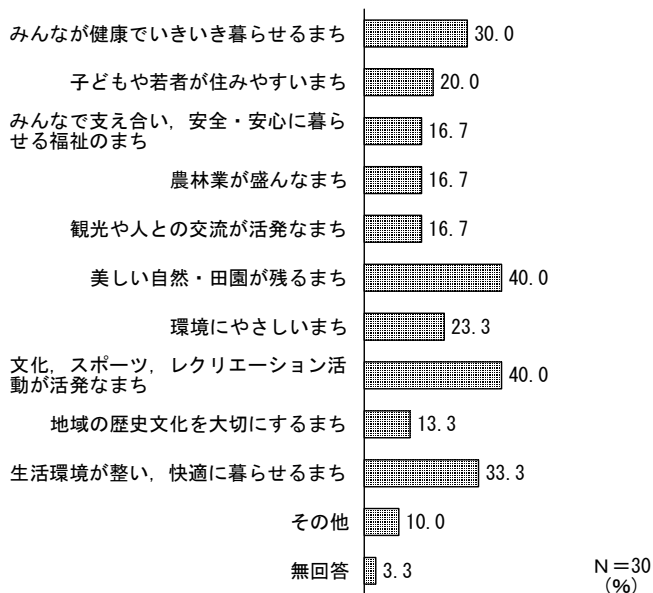
図22 地区への今後の居住意向



カ 地区の将来像

地区の将来像は、「美しい自然・田園が残るまち」及び「文化、スポーツ、レクリエーション活動が活発なまち」を挙げた人が各40.0%で最も割合が高く、次いで「生活環境が整い、快適に暮らせるまち」33.3%、「みんなが健康でいきいき暮らせるまち」30.0%、「環境にやさしいまち」23.3%、「子どもや若者が住みやすいまち」20.0%の順で、現在の田園環境を維持するとともに地域の中で活発な交流があることが望まれています。

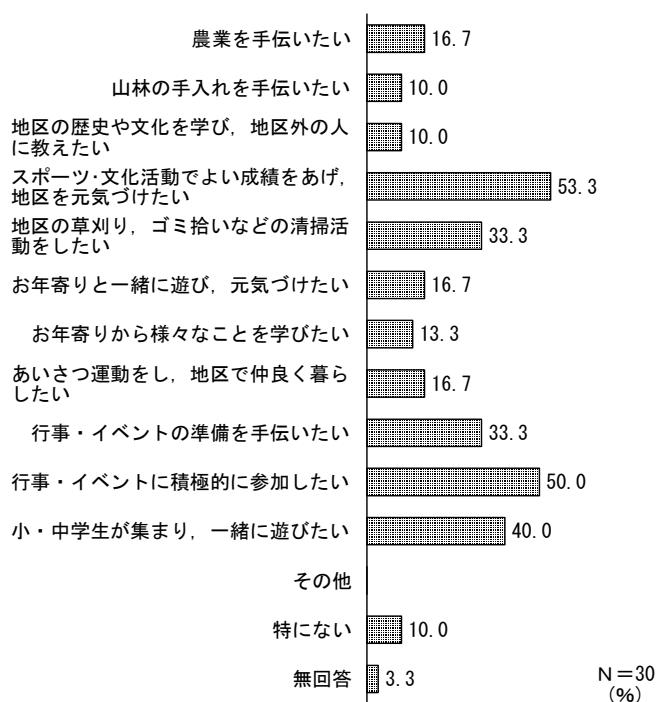
図23 地区の将来像（複数回答：いくつでも）



キ 地区を住みよくするためにしたいこと

地区を住みよくするためにしたいことは、「スポーツ・文化活動でよい成績をあげ、地区を元気づけたい」を挙げた人が53.3%で最も割合が高く、次いで「行事・イベントに積極的に参加したい」50.0%、「小・中学生が集まり、一緒に遊びたい」40.0%の順で、これら3項目の割合が高くなっています。

図24 地区を住みよくするためにしたいこと（複数回答：いくつでも）

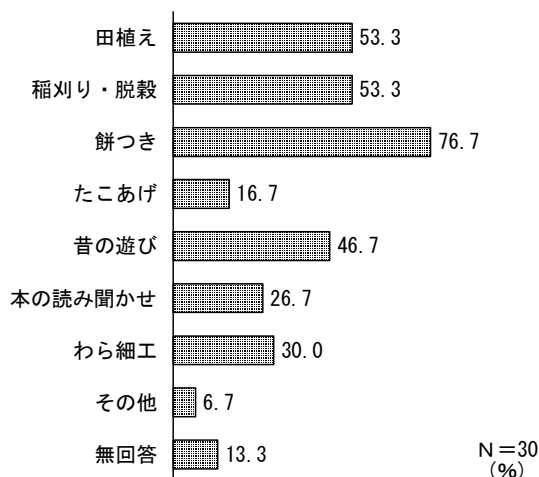


(2) 行事について

ア これからも続けてほしい行事

これからも続けてほしい行事は、「餅つき」を挙げた人が76.7%で最も割合が高く、次いで「田植え」及び「稲刈り・脱穀」53.3%、「昔の遊び」46.7%などの順になっており、和木小学校時代、地域の老人クラブ「平成会」やボランティアグループが熱心に取り組んだ行事が挙げられています。

図25 これからも続けてほしい行事（複数回答：いくつでも）



イ 今までに参加した行事で好きな行事（自由記述）

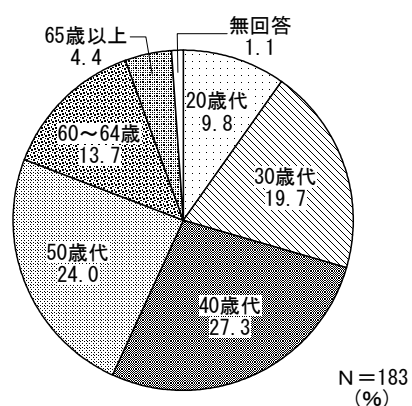
今までに参加した行事で好きな行事は、「だいわ元気まつり」が22件で最も多く、次いで「和木区民（和木公民館）まつり」8件、「各地区のとんど」及び「和木盆踊り大会」6件などの順になっています。

3 地区外に住み、地区内で働いている人

(1) 回答者の年齢

回答者の年齢は、「40歳代」が27.3%で最も割合が高く、次いで「50歳代」24.0%、「30歳代」19.7%、「60～64歳」13.7%、「20歳代」9.8%、「65歳以上」4.4%の順です。

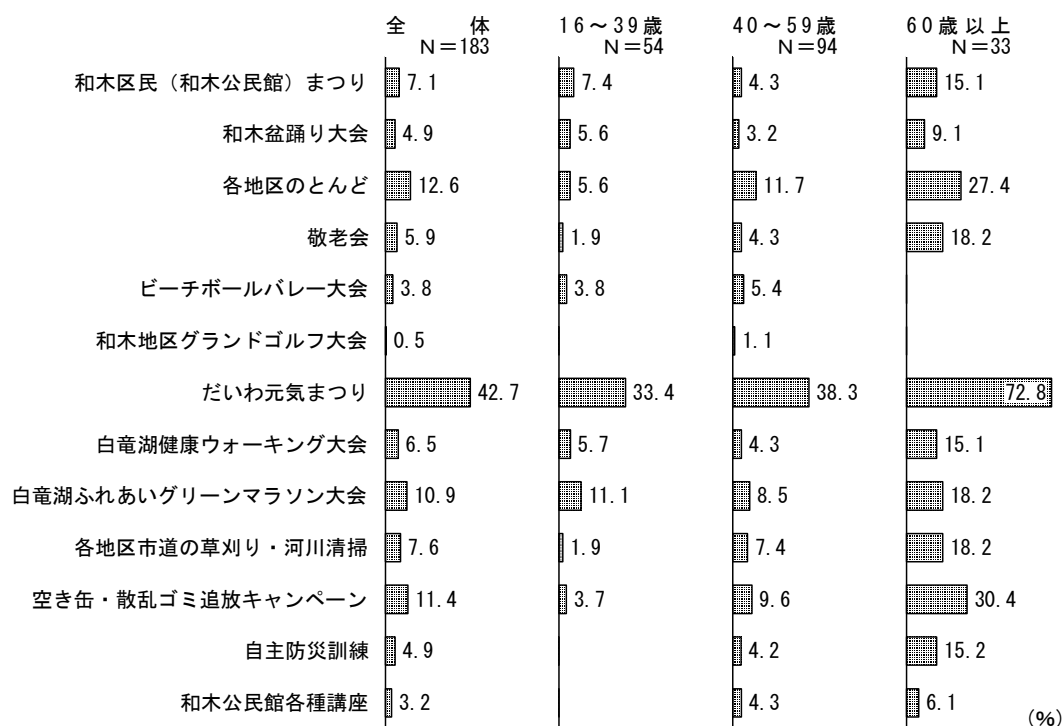
図26 年齢



(2) 行事や活動への参加状況

行事や活動への参加状況（「ほぼ参加」、「半分程度参加」、「時々参加」を合わせた割合）は、「だいわ元気まつり」が42.7%で最も割合が高く、次いで「各地区のとんど」、「空き缶・散乱ゴミ追放キャンペーン」、「白竜湖ふれあいグリーンマラソン大会」の3項目が10%台になっています。

図27 行事や活動への参加状況



(3) 今後の地域づくりについて

ア 地区で大事にしたい、活用したい資源

地区で大事にしたい、活用したい資源のうち10件以上挙げられた資源をみると、特産物では「みどりの町（ぶどう、しいたけ、木工製品など）」、自然資源では「白竜湖、白竜湖周辺の桜・景観・朝霧」、施設などでは「医療関係（大和診療所、白龍湖病院、仁和の里など）」、「白竜湖スポーツ村公園」になっています。

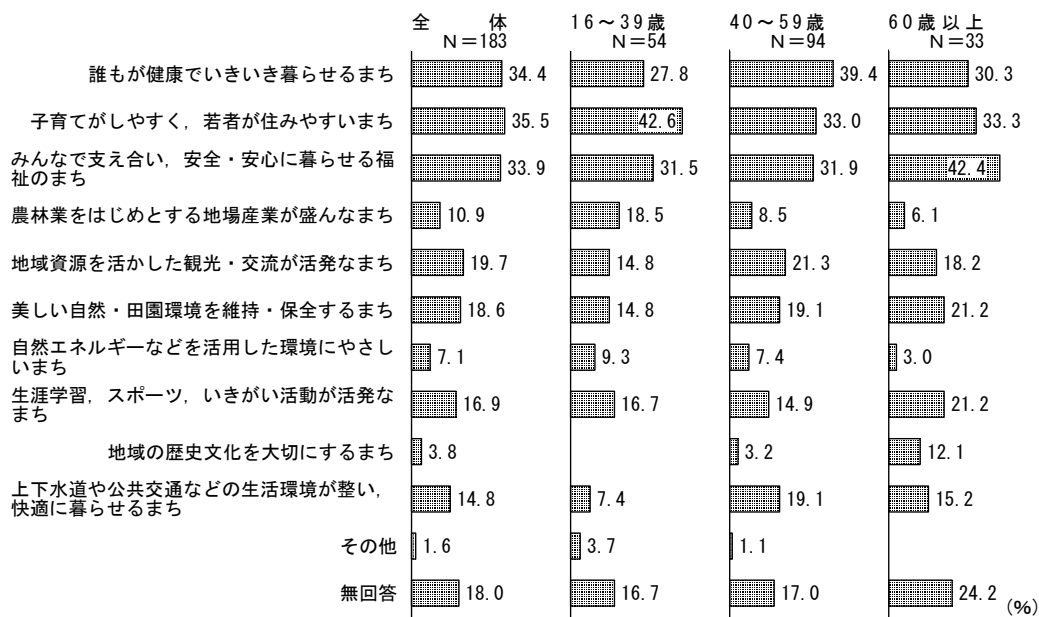
イ 地区の将来像

地区の将来像は、「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」、「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」の3項目が33～35%台で同程度になっています。

上位3項目は、「地区住民」の将来像とほぼ同様な項目になっております。

さらに「地域資源を活かした観光・交流が活発なまち」、「美しい自然・田園環境を維持・保全するまち」が高い割合となっています。

図28 地区の将来像（複数回答：3つ以内）

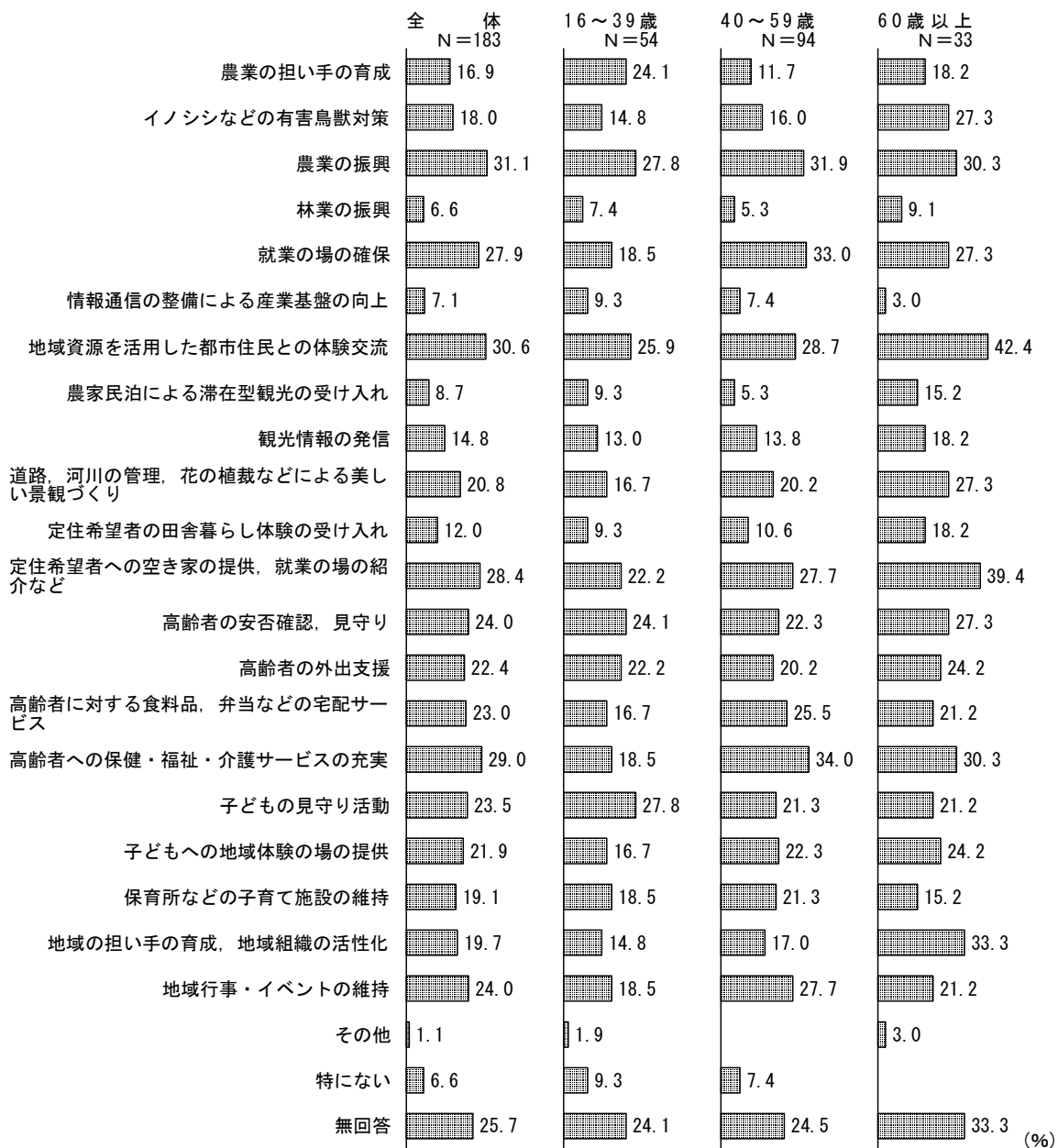


ウ 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと

地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいことは、「農業の振興」を挙げた人が31.1%（57人）で最も多く、次いで「地域資源を活用した都市住民との体験交流」30.6%（56人）、「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」29.0%、「定住希望者への空き家の提供、就業の場の紹介など」28.4%、「就業の場の確保」27.9%、「高齢者の安否確認、見守り」及び「地域行事・イベントの維持」24.0%などの順で、これらが上位を占めています。

「地区住民」の上位と比べて、「農業の振興」、「地域資源を活用した都市住民との体験交流」、「定住希望者への空き家の提供、就業の場の紹介など」の割合が上位に位置しています。

図29 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと（複数回答：いくつでも）



3章 地区の魅力・資源と問題点・課題

1 地区の魅力・資源

本地区は比較的災害が少なく、上下水道などのインフラが整備されているとともに、保健・福祉・医療施設、スポーツ施設などの公共公益施設が集中しているほか、充実した交通ネットワークなど地区の魅力が豊富です。

アンケート調査結果及び活性化意見交換会での意見を踏まえて、地区の魅力・資源を整理すると、次のとおりです。

表6 地区の魅力・資源

区 分	内 容
自然資源	・白竜湖，白竜湖周辺の桜，棕梨川，虚空蔵山，風峰，馬涼山
歴史文化資源	・和木氏八幡神社，一万神社，虫送神社，横郷神社，和木恵比寿神社，和木薬師堂，藤城跡 ・和木神楽
産業資源	・遊休農地
観光・交流施設	・白竜湖スポーツ村公園（総合運動場，野球場，体育館，テニス場，フットサル場） ・白竜湖スポーツセンター（宿泊研修） ・道の駅よがんす白竜 ・広島青少年スポーツセンター ・花みずき公園，二河公園，梅の里公園 ・メダカの里跡 ・和木小学校・保育所跡地 ・白竜湖カントリークラブ ・白竜湖野鳥の森公園 ・白竜湖リゾート
地区行事	・秋祭り，白竜湖の花火（現在は廃止）

図30 地区の魅力・資源

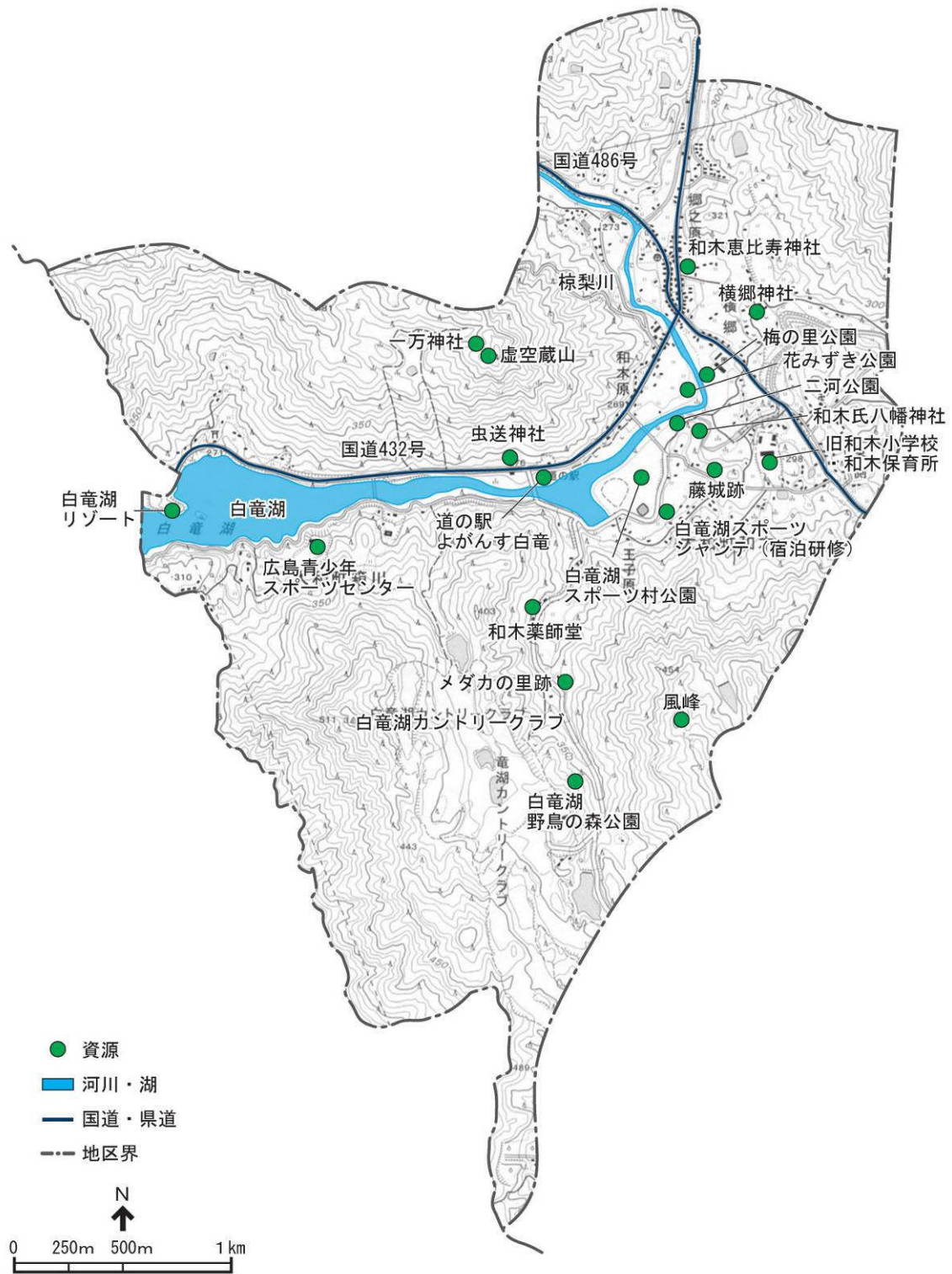


表7 和木小学校・保育所跡地の活用に関する意見

区 分	内 容
地区交流センター	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも誰でも集まれる場づくり（地区内交流，若者交流，サークル活動の場，町民ギャラリー，映画上映，卓球場，ビリヤードなど） ・和木地区図書室，和木歴史文化資料館，和木小学校思い出の部屋 ・カフェ，食堂，居酒屋の設置（老若男女が集える場） ・健康増進施設（温水プール，スポーツジム），グラウンド・ゴルフ場
福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・和木地区全域を対象とした高齢者などの常設サロン ・高齢者の介護施設（認知症対応型グループホームなど） ・障害者授産施設 ・託児所
産業施設	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物加工，販売施設（糀，みそ，惣菜など） ・有機農業の支援施設 ・太陽光発電（校舎の屋根にメガソーラーの設置など） ・事務所として貸出，葬儀場利用など
観光・交流施設	<ul style="list-style-type: none"> ・弁当販売，飲食店の経営（住民，白竜湖スポーツ村公園来訪客向け） ・小学校プールでウナギ，ホンモロコ，ドジョウ，スッポンなどの養殖，加工品の製造，販売，飲食店の経営 ・イノシシ，鹿料理の飲食店 ・スポーツ合宿・宿泊研修施設 ・サイクリングターミナル ・町内小・中学校の児童・生徒の宿泊研修の場 ・広島へ修学旅行に来る生徒の宿泊，農業体験などの場 ・保育所跡地に大型遊具の設置，夏はプール遊び，昆虫採集，釣り，スポーツの場として提供
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館，勤労福祉センター，大和創作センターの機能の移転 ・住宅団地の造成，分譲 ・チェーンソーアート広場

表8 白竜湖スポーツ村公園の魅力を高めるための意見

区 分	件数 (件)	区 分	件数 (件)
温水プール	91	入浴施設	4
夜間照明 (27)	全般	グラウンド・ゴルフ場	4
	フットサル場の増設	更衣室	3
	テニスコート	ウォーキングコース	3
	サッカー場	パークゴルフ場	3
遊具	15	スケート場	3
喫茶・軽食・飲食店	10	屋根付き休憩施設	3
スポーツジム	9	テニスコート	2
宿泊施設(8)	全般	ドッグラン	2
	車中泊	陸上競技場	2
ドーム内の空調設備	7	アーチェリー場	2
トイレ	6	売店	2
アスレチック	5	ボート	2
シャワー設備	5	レンタサイクル	2
キャンプ場	5	スカッシュコート	2
遊歩道	5	マラソンコース	1
フットサル場の増設	5	その他	23
		合 計	261

2 地区の問題点・課題

アンケート調査結果及び活性化意見交換会での意見を踏まえて、地区の問題点・課題を整理すると、次のとおりです。

表9 地区の問題点・課題(1)

項 目	困っていること
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしをはじめとする高齢者のみの世帯の生活不安（引きこもり、体調を崩した時、通院、買い物など） ・高齢者のみの世帯が何を求めているのかニーズの把握が必要 ・身体能力の低下で、近所づきあい（草刈りなど）ができなくなることの不安 ・お互いに助けてと言にくいこと ・元気な高齢者の交流の場、軽作業などの生きがい活動の場が少ないこと ・認知症高齢者の増加 ・高齢者の利用に配慮した公共公益施設の整備（階段の手すり、床、トイレなど）
若者の定住・子育て環境・U J I ターン	<p><若者の定住></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区で生まれ育った若者の流出 ・若者の就業の場がないこと
	<p><子育て環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校が廃校になり、地区と子どもとの関わりが減ってきていること（運動会、敬老会、稲作体験など） ・子どもの交流がないこと（帰宅後、家にいることが多いこと） ・高校が遠いうえに少ないこと ・高校など学校へ子どもが通学する交通手段がないこと
	<p><U J I ターン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区出身者との交流不足 ・若い人が移住して来ないこと ・空き家を活用したU J I ターンの確保
農林業・農林地の管理	<p><農地の管理・営農></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ、シカなどの有害鳥獣被害の増加 ・遊休農地の増加（遊休農地の増加に伴う地区景観の悪化、周辺農地への悪影響の心配があることなど） ・農業後継者・担い手が少ないこと（過疎化・高齢化で地区での担い手の確保が難しくなっていること）
	<p><林地の管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・山林の荒廃が進行していること ・誰も森林の管理をしなくなっていること
観光・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・白竜湖スポーツ村公園一帯、棕梨川、虚空蔵山などの観光・交流資源はあるが活用が不十分であること ・来訪客に対するおもてなし体制が不十分であること（案内標識、観光・交流マップ、ガイド、土産物など） ・白竜湖一帯の情報発信不足（桜の開花情報など）

表9 地区の問題点・課題(2)

項 目	困っていること
生活環境	<p><交通手段></p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの回数が少ない，路線バスの廃止に対する不安 ・白龍湖病院の診察日にふれあいタクシーが運行していないこと ・行事のある土・日曜日にふれあいタクシーが運行していないこと ・和木小学校跡地までの移動手段がないこと <p><商業サービス施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店，居酒屋が少なく，生活必需品を総合的に購入できる店がないこと ・商店はあるが駐車場が狭いこと ・ガソリンスタンドがないこと ・金融機関が減少していること <p><医療施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門の病院が遠い（整形外科，小児科など） <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道の幅員が狭く，大型車が走ると歩行者に危険であること ・河川，道路，側溝の清掃が不十分 ・空き家，空き公共施設などの増加への不安，活用の検討
地区活動	<p><担い手></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治振興会などの役員の人材不足 ・祭りの維持の困難化（若い人がいない地区） ・高齢化による共同作業への参加の困難化 <p><交流></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が引きこもり傾向にあること ・地区住民の交流の場の減少 <p><イベントの見直し></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントへの参加者の減少 ・しめ縄づくりの担い手の減少 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害避難場所が確定していないこと ・地区の歴史文化資料の散逸の不安

4章 地区活性化計画

1 地区の将来像

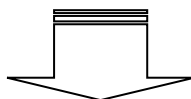
アンケート調査結果において、次の4項目を挙げた人の割合が高くなっています。

また、過疎化・高齢化が進む中、地区が結束して活性化に取り組むことが大事になります。

このため、アンケート調査結果、活性化意見交換会での意見、本地区の今後の動向を踏まえて、地区の将来像として「**誰もがいきいきと暮らし、多彩な交流が展開される和木地区**」を掲げます。

＜地区の将来像に関する意見：14頁参照＞

① 誰もが健康でいきいき暮らせるまち	45.4%
② 子育てがしやすく、若者が住みやすいまち	35.8%
③ みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち	35.0%
④ 上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち	26.3%

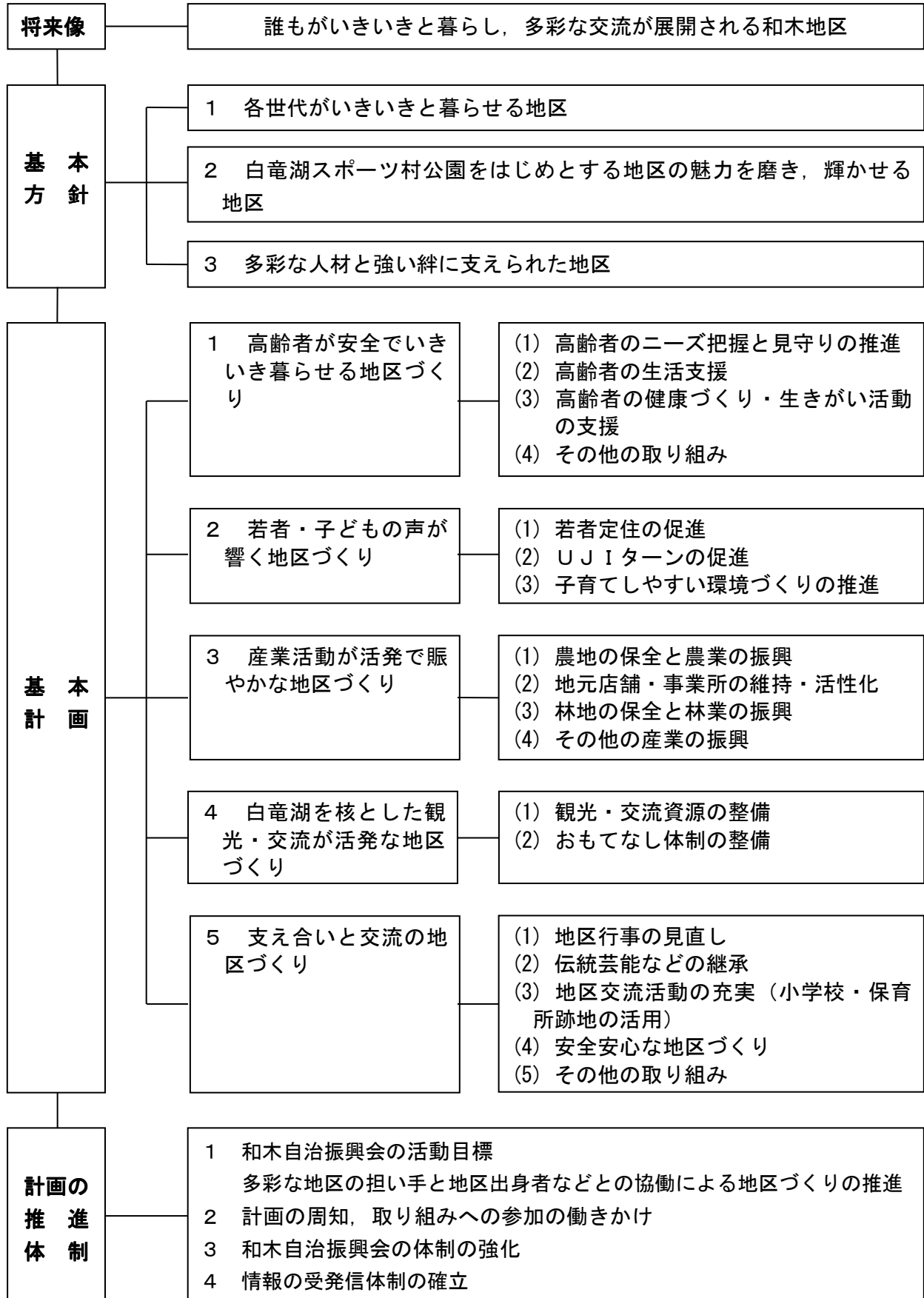


＜地区の将来像＞

誰もがいきいきと暮らし、多彩な交流が展開される和木地区

地区の将来像の実現に向けて、地区づくりの基本方針、基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

＜地区づくりの体系＞



2 地区づくりの基本方針

地区の将来像を実現するために、3つの基本方針を掲げます。

1 各世代がいきいきと暮らせる地区

- ・地区住民の支援のもとに、高齢者が安全安心に暮らせる健康長寿の地区
- ・地区全体の子育て支援により、地区に愛着と誇りを持つ子どもが育つ地区
- ・若者が地区での生活を楽しみ、地区活動に積極的に参加する地区
- ・同世代、世代間の交流が活発で、地区住民で支え合う地区

2 白竜湖スポーツ村公園をはじめとする地区の魅力を磨き、輝かせる地区

- ・多様な人材の参加による農林地の保全と活用，農林業の振興
- ・白竜湖スポーツ村公園を核とするとともに，地区の自然，歴史資源を磨き，来訪者が地区を満喫できる仕組みづくり

3 多彩な人材と強い絆に支えられた地区

- ・同世代，世代間，地区外に住み，地区で働いている人などが強い絆で結ばれ，様々な取り組みを推進する地区
- ・地区出身者との交流が活発で，協力して地区づくりに取り組む地区
(土地・建物の管理・活用に係る連携，Uターンしやすい環境づくり)

3 地区づくりの基本計画

地区の将来像及び基本方針を踏まえて、地区づくりの基本計画において5つの柱と主な取り組みを掲げます。

この内容は、アンケート調査結果、活性化意見交換会での意見をもとにとりまとめたものです。

1 高齢者が安全でいきいき暮らせる地区づくり

(1) 高齢者のニーズ把握と見守りの推進

ア 高齢者世帯の実態とニーズの把握

- ・緊急時に迅速な支援を行うために、一人暮らし、夫婦二人暮らしなどの高齢者世帯（高齢者のいる共働き世帯を含めて）の住まい確認、マップ作成
- ・高齢者ヒアリングによるニーズの把握
- ・高齢者のみの世帯の子どもとの連絡体制の確保（子ども世帯と連携した支援）

イ 見守りの推進

- ・見守りされる側の気持ちに配慮した取り組みの推進
- ・近所での朝の挨拶などの声かけの推進（近隣関係が基本）
- ・高齢者の見守り（隊）の充実（周知、体制の強化）
- ・ボランティア活動（協力員制度）の充実
- ・社会福祉協議会、民生委員児童委員などと連携した見守りの推進
- ・無料、低料金の見守りサービス（ポット、ランプ、ブザー）提供の検討
- ・社会福祉協議会の「ほっとは一と事業（話し相手）」の活用

(2) 高齢者の生活支援

ア 家事援助などの支援

- ・行政配布物の回覧、ゴミ出し、積雪時の除雪の支援
- ・草刈りなどでのシルバー人材センターの活用及びボランティアによる支援
- ・社会福祉協議会の「ほっとは一と事業（家事援助、外出支援、墓参りなど）」の活用

イ 高齢者の交通手段の確保

(ア) 大和ふれあいタクシー充実の働きかけ

- ・運行日、運行回数の充実の働きかけ
- ・目的地をJR河内駅まで延伸することの働きかけ

(イ) その他の交通手段の確保

- ・タクシー利用者に対する支援
- ・地区住民がJR河内駅に行く際に、タクシーを乗合で利用する仕組みづくり（1人当たりの費用負担の軽減）
- ・地区行事の際の住民ボランティアによる送迎体制の確保

ウ 外出が困難な高齢者のための食事・買い物の支援

- ・買い物支援策の検討（移動販売車の運行の働きかけなど）
- ・高齢者に対する配食サービスの検討

(3) 高齢者の健康づくり・生きがい活動の支援

- ・歩行距離、交通手段に配慮した高齢者サロンの開催単位の検討と活動の充実
- ・地区内交流を推進するために、小学校跡地を活用して地区を対象とした常設サロンの設置
- ・高齢者に対する保健・福祉・介護サービスの利用に関する情報の提供

表10 具体化に取り組みたい事業

項目	内容
事業名	・高齢者常設サロン運営事業
事業対象	・引きこもりがちな高齢者など
事業内容	・旧小学校校舎を活用して、和木地区全域を対象とした常設サロンの設置 ・週1回程度から開始して、利用動向を踏まえて徐々に回数の充実 ・土・日曜日は、スタッフとして若い世代の参加を働きかける ・交通手段のない高齢者に送迎の実施
連携団体	・社会福祉協議会、各種団体など
資金の確保	・和木自治振興会の予算、社会福祉協議会、行政の補助金
その他課題	・運営組織の設立 ・高齢者の送迎体制の確保

(4) その他の取り組み

- ・認知症高齢者の増加が見込まれることから、旧小学校校舎を地区の社会福祉法人与連携し、高齢者の介護施設（認知症対応型グループホームなど）への活用の検討
- ・高齢者の安全な利用を確保するため、和木公民館の土足利用の検討（スリッパでは階段を使う際に滑りやすいため）

2 若者・子どもの声が響く地区づくり

(1) 若者定住の促進

- ・ 地区で生まれ育った若者の定住を促進するための就業の場の確保
- ・ 農林業などの地場産業の振興による就業の場の確保（農業生産法人など）
- ・ 地区及び周辺への企業立地の働きかけ
- ・ 地区の伝統芸能，行事への参加などの推進による地区に愛着を持つ子どもの育成による定住の促進

(2) U J I ターンの促進

- ・ 空き家（賃貸，売買物件）の発掘と空き家マップの作成，三原市の空き家バンクを活用した情報発信による空き家への移住の促進
- ・ 空き家所有者と空き家利用希望者を結ぶ空き家コーディネーターの育成

(3) 子育てしやすい環境づくりの推進

- ・ 和木地区全体の子ども会を組織し，地区との交流の推進
- ・ 子どもの見守り（隊）の充実（周知の徹底）
- ・ 小学校の理解のもとに地区行事への子どもの参加の推進
- ・ 地区を挙げてのファミリーサポート事業，託児所の設置の検討（保育所時間外の預かり）
- ・ 病児，病後児の預かり，警報などが出た場合の迎え，預かりによる共働き家庭の支援
- ・ 子育てサークル活動の充実，支援

3 産業活動が活発で賑やかな地区づくり

(1) 農地の保全と農業の振興

ア 有害鳥獣対策

- ・近隣で話し合い，共同での取り組み（捕獲，防護柵，箱わなの設置など）を検討
- ・イノシシ被害防止対策支援（地区に材料費を補助，作業は地区で実施）の推進
- ・牛の放牧，ヤギの飼養によるイノシシ被害の防止
- ・イノシシを材料とした郷土料理の開発
- ・行政の有害鳥獣防除対策支援制度の活用

イ 担い手の確保

- ・農業生産法人に類似した組織（農作業の担い手バンクなど）の設立
- ・シルバー人材センターを活用した草刈りの実施
- ・都市住民を農業の担い手として受け入れる方策の検討

ウ 農業の振興

- ・農業に夢が持てる営農プランの検討
- ・休耕田を活用して野菜，果樹，麦などの栽培と加工品の開発
- ・小学校・保育所跡地を活用した農産物加工施設（糀，みそ，惣菜など）の整備と販売の推進

表11 特産品開発に対する意見(1)

項目	内容	
食材	・米，レンコン，大和いも，はとむぎ，梅，ぶどう，桃，イチゴ，ブルーベリー，柿，柚，松茸，椎茸，ハーブなど	
加工品	野菜	・野菜・果実を使ったスイーツ，チップスの詰め合わせ（レンコン，ゴボウ，カボチャ，桃，リンゴ，干しぶどうなど） ・漬け物（梅，らっきょう，大根，白菜漬けなど） ・有機栽培の野菜や豆などで作った加工品
	はとむぎ	・パン，クッキー，ソフトクリーム，麦茶 ・スポーツ愛好家に低カロリーなはとむぎスパークリング
	梅	・梅ジャム，梅エキス
	果物	・果物で香りを楽しんでもらうアロマオイルやフレグランスミスト ・桃，梨，ぶどうなどの果物を利用した土産，スイーツ，ジャム ・イチジクなどを入れたパウンドケーキ・ジャム
	その他	・米 ・椎茸の肉詰め
菓子・パン・スイーツ	・大和の果物，野菜を使った洋菓子 ・エトワール大池による新商品開発（みどりの町のぶどうを利用し，和洋をミックスしたお菓子など） ・宝利製パン所のパン ・桃大福やぶどう大福などの甘い菓子 ・生どら，まんじゅう，餅 ・山栗を使ったもの	

表11 特産品開発に対する意見(2)

項 目	内 容
飲み物・アイスクリーム	<ul style="list-style-type: none"> ・白竜の桃を使用したピーチソフトクリーム ・白竜湖スポーツドリンク ・白竜水使用のスポーツ飲料やフルーツジュース
料理・弁当類	<ul style="list-style-type: none"> ・お好み焼き，チヂミ，たこ焼き（若い人は好む） ・弁当（花見弁当），飲み物 ・軽食（パン，サンドウィッチ，おむすび） ・若者向けの料理，ご当地グルメ（B級グルメ） ・冬は体の温まるしょうが湯，甘酒，ぜんざい，イモの汁
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・蜂蜜 ・ブラックバス，ドジョウ，イノシン，鹿，まむしの加工品 ・竜キャラのグッズ販売（竜のタオルなど） ・手作りの箒，熊手，木工品，キーホルダー ・竹，山野草，ワラなどの自然素材の活用

エ 都市住民と連携した農地の保全

- ・休耕田を活用した市民農園の運営体制づくり
- ・遊休農地の貸与による都市住民との交流
- ・畑団地をつくり，都市住民に賃貸または売買の検討

表12 具体化に取り組みたい事業

項 目	内 容
事業名	・都市住民を活用した農地保全事業
事業対象	・広島県内の非農家の都市住民で，農業を始めたい人，家庭菜園をしたい人など
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農業を始めたい人に農業技術を指導しながら，最終的に農地を持ちたい人に区画単位で賃貸または売買する ・農地を所有する意志はないが，信頼できる農家と二人三脚で営農をしたい人への農家の紹介 ・農機具は，使用しなくなった農機具を譲り受け，活用する
連携団体	<ul style="list-style-type: none"> ・地区団体，住民，行政など ・運営を学ぶためのNPO法人や専門家
資金の確保	・農地の賃貸料，農地の管理料，農業講習費用など
その他課題	・初期資金（募集などの事務手続き，農地の賃貸料，農機具の管理）の確保

(2) 地元店舗・事業所の維持・活性化

- ・地元店舗の維持に向けた地区全体での応援（地区を挙げて「地元店舗で買い物する運動」の意識啓発）
- ・地元店舗と連携して、外出困難な高齢者の食料品などの宅配の仕組みづくり
- ・地元店舗・事業所と連携した地区産業の活性化体制づくり（地元店舗・事業所の売上に貢献するイベント運営など）

(3) 林地の保全と林業の振興

ア 林地の保全

- ・山林の保全、整備（イノシシが里に下りず、生活できる環境づくり）
- ・若者などへの里山体験研修会の開催による山林保全の必要性に関する意識啓発と里山管理ボランティアの育成
- ・増加している竹林を活用して竹チップの肥料化、竹炭の生産、竹炭を活用したおいしい米づくり

イ 林業の振興

- ・林道の整備や間伐などで切った木の活用方法の検討（燃料など）
- ・陶芸教室などへ木材を燃料として活用
- ・キノコ栽培と観光への活用
- ・組織的な取り組みに向けて事業計画の検討（出資、人件費などの予算）

(4) その他の産業の振興

- ・フリーマーケット（各月第1日曜日）の周知，継続的な開催（野菜の日，フルーツの日，雑貨の日，家具の日など）
- ・旧小学校プールを活用したウナギ，ホンモロコ，ドジョウ，スッポンなどの養殖
- ・小学校・保育所跡地を太陽光発電，貸事務所，葬儀場などへ活用
- ・「社会福祉法人みどりの町」と連携したドジョウの養殖とドジョウ料理店の経営（ドジョウ鍋など）
- ・休耕田を活用した太陽光発電設備の設置，売電
- ・ゴミ焼却・発電給湯，バイオマスなど，地区で作ったエネルギーを家庭や施設，福祉車両などで利用する仕組みづくり

4 白竜湖を核とした観光・交流が活発な地区づくり

(1) 観光・交流資源の整備

ア 白竜湖周辺の環境保全と活用

(ア) 環境保全

- ・白竜湖周辺の草刈り，雑木の伐採，花（曼珠沙華，水仙など）の植栽，絶滅の危機にあるヒョウモンモドキの保護など
- ・ダム洪水敷の環境整備
- ・翔竜大橋遊歩道への花のプランター，ベンチなどの設置
- ・白竜湖周辺への提灯の設置，一万橋へのスズラン灯の設置
- ・白竜湖一帯への花の植栽による景観の向上（利用者が喜ぶ環境づくり）

(イ) 白竜湖周辺の桜並木の活用

- ・老木になっている桜の更新，河川敷への桜の植栽に取り組むため，「(仮称)桜を守る会」の設立
- ・桜シーズンの活用（ライトアップなどでの集客，露店出店による観光消費の仕掛けづくり）
- ・県，市と連携した桜の開花情報の発信（マスコミ，インターネットなど）
- ・伐採した老木の活用（桜チップ，燻製に活用）

(ウ) 白竜湖の活用

- ・釣り大会の定期的な開催（ブラックバス釣り）
- ・ブラックバスの駆除と鮎，ワカサギの名所づくり
- ・湖水面をボート，カヌー，カヤックなどの場として活用（遊びから競技まで幅広く利用）

(エ) 白竜湖スポーツ村公園周辺の環境保全と活用

- ・花みずき公園への遊具の設置，モミジなどの植栽による四季を通じての利用促進
- ・二河公園の清掃，雑木の伐採
- ・梅の里公園の活用（花見，梅もぎ体験など）
- ・花みずき公園，二河公園，梅の里公園の遊歩道の整備と一体的な活用
- ・メダカの里の再生

イ 棕梨川の整備と活用

- ・河川清掃と親水公園の整備（ホタルの里づくりなど），イベント開催
- ・魚の種類を増やす（鮎，蟹，鯉など）
- ・鮎のつかみ取り

ウ 山の活用

(7) 虚空蔵山

- ・山頂展望広場の雑木の伐採による眺望の確保，登山道（整備中）の整備促進
- ・山野草の観賞，ガイドによる説明
- ・「虚空蔵山へ登る会」の設立と活動の推進（2～3か月に1回登山）
- ・山頂から白竜湖を展望しながら降りるすべり台の整備
- ・山頂へハングライダー離陸場，白竜湖周辺へ着陸場の設置
- ・山頂に神社を建設

(イ) その他

- ・風峰と馬涼山の活用
- ・百年もみじの木の保護
- ・山林の樹木，山野草に名札を付け，自然の体験学習ウォーキングコースづくり

エ 歴史文化資源

- ・薬師寺，薬師寺の祭りの活用
- ・神社仏閣，城跡などの散策コースづくり

(2) おもてなし体制の整備

ア 白竜湖スポーツ村公園・道の駅よがんす白竜と連携した来訪客の誘客の推進

- ・現在（平成24年度）の白竜湖施設の有料利用者約54,000人，応援・見物での利用者数約20,000人の計74,000人を，将来の来訪客数の目標を100,000人に設定
- ・地元客の利用推進
- ・白竜湖周辺の活性化に向けて「(仮称)白竜湖活性化委員会」を設立し，改善点，魅力向上，来訪客増大対策の検討

イ 観光・交流案内の充実

(7) 和木地区へのアクセスの向上

- ・案内標識の整備
- ・広島中央フライトロードと国道486号交差点付近に本地区の案内看板，休息施設などの整備

(イ) 和木地区を満喫できる情報の提供

- ・和木地区の観光・交流資源の発掘と案内マップの作成
- ・白竜湖一帯の散策，ウォーキングコースづくり，歴史文化体験，トレッキングなどのコースづくり
- ・ボランティアガイドの育成（来訪客に観光・交流スポットの案内）
- ・道の駅よがんす白竜と白竜湖スポーツ村公園の予定（行事）の共有化とPR
- ・白竜湖スポーツ村公園，道の駅よがんす白竜との連携の強化による情報発信（情報共有とインターネットの活用），情報案内の強化，環境管理の充実

(ウ) その他

- ・白竜湖スポーツ村公園の花火大会の復活
- ・花見客（桜，梅，花）の安全な散策を確保するための照明の設置

ウ 飲食，特産品販売施設の充実

- ・来訪客に対するサービスの向上を図るため，弁当販売，飲食店の新設（弁当，うどん，ソフトクリーム，飲み物，和木のパンケーキ，野菜など）
- ・来訪客に対するサービスの向上を図るため，国道432号沿いへ土産物，シャワー付き飲食店などの誘致
- ・特徴のある料理，土産物を提供するため，小学校プールを活用したウナギ，ホンモロコ，ドジョウ，スッポンなどの養殖とこうした食材を活用した地区での加工品の製造，販売，飲食店の経営
- ・地区でのイノシシ，鹿料理の提供

表13 具体化に取り組みたい事業

項目	内容
事業名	・来訪客おもてなし強化事業
事業対象	・白竜湖一帯の来訪客
事業内容	・来訪客に対するサービスの充実を図るため，弁当の販売，飲食・休息施設の設置・運営 ・弁当づくりは小学校跡地の調理施設を活用 ・飲食・販売施設は，白竜湖周辺の空き店舗を活用することを検討
事業スケジュール	<準備段階> ・弁当販売，飲食店営業に係る保健所などへの諸手続の確認 ・弁当販売，食堂（農家レストラン）経営に係る先進地視察，研究 <第1段階> ・弁当づくり（余剰野菜の活用など） ・ドームなどでの大会，イベント時に販売（弁当，むすび，漬け物） <第2段階> ・空き店舗の取得（購入または賃貸） ・来訪客に対する飲食施設の運営
連携団体	・白竜湖スポーツ村公園など
資金の確保	・自己資金，行政の補助金など
その他課題	・初期資金の確保

5 支え合いと交流の地区づくり

(1) 地区行事の見直し

ア 既存行事の見直し

- ・地区行事の単位の見直し（区から地区単位へ）
- ・連帯感を強化するため、地区全体で盆踊り大会の開催，桜並木をイルミネーションでの演出，露店の充実による魅力のアップ
- ・秋祭りの活性化

イ 子どもが主役の地区行事の活性化

- ・子ども相撲大会の維持
- ・和木公民館まつりなど公民館行事への子どもの参加の促進（子どもとの交流に対する保護者の理解の醸成）
- ・自治会単位で放課後子ども教室に参加する日の創設（地区行事，伝統芸能などを継承するため）
- ・子どもが主体の祭りの開催（例：売り子は全員子ども，大人は観客）
- ・子どもみこしの復活
- ・子どもが集まる地区行事を増やすこと（賑やかになり，楽しみがある）

ウ 廃止された地区行事の復活，地区行事の新設

- ・白竜湖スポーツ村公園での花火大会の復活（他地域の花火大会との競合を避け，冬季・春季開催の検討）
- ・和木小学校跡地での区民運動会，土曜夜市の復活
- ・地区を挙げてイベントなどの企画，参加意識の啓発

(2) 伝統芸能などの継承

- ・八幡神社，横郷神社，和木恵比須神社のしめ縄づくりの伝統の継承（各区で2～3名ずつが講習を受け，技術を伝承）
- ・地区の歴史，文化財の保存，管理体制の確立（各戸の古文書，写真などの保管，管理）

(3) 地区交流活動の充実（小学校・保育所跡地の活用）

- ・いつでも誰でも集まれる場づくり（地区内交流，若者交流，サークル活動，町民ギャラリー，映画上映，ビリヤード，卓球など）
- ・和木地区図書室の設置（各戸にある図書を集めるなどの方法で蔵書を確保）
- ・和木歴史文化資料館の設置（古文書，農機具，生活用品，写真などの保管，展示）
- ・カフェ，食堂，居酒屋の設置（老若男女が集える場）
- ・健康増進施設（温水プール，スポーツジム），グラウンド・ゴルフ場の整備

(4) 安全安心な地区づくり

- ・ 自主防災組織の充実
- ・ 災害時避難場所，避難経路の周知（避難訓練の実施など）
- ・ 交通安全運動の推進

(5) その他の取り組み

- ・ 地区のキャラクターグッズづくりと地区PRへの活用

4 計画の推進体制

計画の具体化に向けて、さらに協議・検討し、出来るものから段階的に実行していきます。
このため、本計画を地区活性化に取り組むうえでの出発点とし、次のような取り組みを推し進めます。

(1) 和木自治振興会の活動目標

地区づくりの核になる和木自治振興会の活動目標を次のように掲げます。

多彩な地区の担い手と地区出身者などとの協働による地区づくりの推進

(2) 計画の周知，取り組みへの参加の働きかけ

「和木地区活性化計画」の周知，取り組みへの参加の働きかけを行います。

(3) 和木自治振興会の体制の強化

和木自治振興会の体制を次のように強化し、「和木地区活性化計画」に基づく各種事業を推進します。

ア 継続的に活動できる体制の強化

- ・「和木地区活性化計画」の推進に取り組む「和木地域活性化実行委員会」の設置
- ・若者の「和木地域活性化実行委員会」などへの参加の促進
- ・地域おこし協力隊員との連携の推進
- ・収益事業の受け皿となるNPO法人，町民出資の地区づくり会社などの設立の検討

イ 段階的な取り組みの推進

- ・和木地域活性化実行委員会において計画の優先順位付け（和木小学校・保育所の跡地利用など）を行い，段階的な取り組みの推進

ウ 地区人材バンクの設立

- ・地区の人材，事業所の得意分野を整理したリストを作成し，地域づくりに適材適所で協力してもらう体制の確立

エ 取り組みへの多様な担い手の参加の確保，人材の育成

- ・住民，各種団体，NPO法人，企業などとの連携の強化
- ・地区出身者及び都市住民の応援，三原市などの支援の活用
- ・講演会，研修会，先進地視察などの開催による人材の育成

(4) 情報の受発信体制の確立

地区住民の地域行事などの情報共有の強化及び地区出身者などとの交流の推進を図るため、地区外へ情報を定期的に発信するとともに、各種相談などに的確に対応できる体制を確立します。

ア 地区内向けの情報受発信

- ・自治振興会だよりの発行
- ・常会、回覧板などを活用した地区内情報発信体制の強化
- ・参加の少ない地域の若者への情報伝達の強化（メールなど）

イ 地区外向けの情報発信

- ・地区出身者などへの情報発信体制の確立（ホームページの開設，編集，更新体制の確立（旬の情報の発信など））

資料 計画策定の取り組み

計画策定の経緯

計画策定は、次のような経緯で取り組みました。

日 時	委員会など	協議事項
平成25 (2013)年 9月29日	第1回地域計画 策定委員会	・地域計画策定委員会の設置 ・「地域計画」策定の進め方について
10月21日	地域計画策定委員会 役員会	・アンケート調査の実施時期 ・アンケート調査内容
11月1日～ 11月12日	アンケート調査	・アンケート調査の実施 ・地区住民（16歳以上） ・小学生（4～6年生）・中学生 ・地区外に住み，地区内で就業している人
11月24日	第2回地域計画 策定委員会	・第1回地域計画策定委員会以降の経過報告
	第1回和木地区活性 化意見交換会	・地区で困っていることとその解決のアイデア について
12月15日	第2回和木地区活性 化意見交換会	・アンケート調査結果の報告 ・地区の魅力・資源と活用のアイデアについて ・地区の将来像，今後取り組みたいこと，取り 組んでほしいこと
平成26 (2014)年 1月26日	第3回和木地区活性 化意見交換会	・テーマ別取り組み事項の検討
2月7日～ 3月8日	各自治会別懇談会	・アンケート調査結果・意見交換会での意見の 報告，協議
3月2日	地域計画策定委員会 役員会	・計画素案の協議
3月23日	第3回地域計画 策定委員会	・計画案の協議，承認